

平成22年度

事業
報告



THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉 2010

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

はじめに

「共に生きる豊かな福祉社会」のために

2011年3月11日、死者・行方不明者が約2万人にのぼる東日本大震災が起こり、あらゆる状況が激変しました。救援募金の受け付けを震災翌日から開始し、寄付が10億円を超えた3月下旬には第1次寄託分として6億円を日本赤十字社や岩手、宮城、福島、茨城の4県の社会福祉協議会に送ったほか、被災した障害のある人たちのため、独自の救援事業に着手。被災地の子どもたちのための事業の準備も始めました。

朝日新聞厚生文化事業団は1923年（大正12年）の関東大震災で朝日新聞社が展開した救援事業をきっかけに、5年後に創設されました。以来、独立した組織として先駆的な事業に取り組みながら、同社の社会貢献の実践組織としての役割も担ってきました。80周年の2008年には、社会福祉事業の重点部門を「子ども」「障害のある人」「高齢者」の3つに絞る基本方針を決めました。

80周年記念事業として注目を集めた「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」は、10年度までの3年間で成果をあげました。同じく「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」も3年間に応募者が増え、定着してきました。また、10年度は、児童養護施設や里親家庭で過ごした人たちを中心とする当事者グループの全国ネットワーク「こどもっと」の結成や、「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」事業の立ち上げなど、新たな取り組みも始めました。

景気の低迷に震災が重なり、社会的に困難な立場の方々への支援の必要性は増すばかりです。私たちは「共に生きる豊かな福祉社会」の実現をめざし、東日本大震災の救援事業をはじめ、時代の要請に応えていくための活動をいっそう充実させていきます。

多くの皆さまのご協力に深く感謝を申し上げますとともに、2010年度の事業報告をさせていただきます。

2011年5月
社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団

目

次

はじめに	1
東日本大震災	5
東日本大震災救援募金 朝日新聞社と協力、日本赤十字社などへ6億円を第1次寄託	5
東日本大震災救援事業 障害のある人のため、事業団独自の事業にも着手	6
子どもの福祉	7
子どもへの暴力防止プロジェクト助成	7
子どもへの暴力防止フォーラム（東京）	12
児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金	13
社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」	13
ピア・キャンプの開催（静岡）	14
朝日夏季保育大学（長野）	15
第27回福祉施設絵画展（名古屋）	16
障害者の福祉	17
自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）	17
ゲリー・メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」（高松）	18
連続講座「自閉症の人たちの支援を考える」（沖縄）	18
自閉症の子どもの自立課題の作り方講座（福井県敦賀市）	19
ジョブコーチ・ネットワークフォーラム さいたま／JC-NET（熊谷）	19
第27回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）	20
高次脳機能障害についての講演会（東京、大阪、福岡、名古屋）	21
なるほど！納得！！高次脳機能障害 in NAGOYA/TOYOHASHI（愛知）	23
「あなたのうつ 私のうつ となりのうつ ～みんなでうつを考えよう～」（東京）	23
視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」（東京）	24
「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」（東京）	25
第29回肢体不自由児・者の美術展（東京）	25
第39回聴美会展（名古屋）	25
第45回名古屋市障害者作品展示会	26
第48回心身障害問題を考える集い（名古屋）	26

第31回障害者歩くスキーの集い（札幌）	26
第31回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（沖縄）	27
第22回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（大分県宇佐市）	27
高齢者の福祉	29
高齢者への暴力防止プロジェクト助成	29
高齢者フォーラム「これからの介護のかたち～こちよい介護をめざして～」（東京、大阪）	30
高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」（全国9カ所）	31
朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）	33
福祉教育・福祉啓発推進	34
第2回環境福祉シンポジウム「踊り場の社会 問われる福祉」（東京）	34
第6回自殺防止事業「自殺!? ちょっと待って!」（福岡）	34
東海グループホームスタッフ研修会（名古屋）	35
遺贈・遺言セミナー「老いじたく～あなたの財産を未来に」（東京、大阪、福岡）	35
医療と公衆衛生	37
第62回保健文化賞（東京）	37
アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）	37
生活習慣病市民公開講座（北九州）	38
チャリティー事業	39
朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）	39
第60回メサイア演奏会（東京）	40
親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）	41
第52回各派合同三曲演奏会（大阪）	42
第58回洋舞合同祭（尼崎）	42
協賛能（大阪）	43
第57回各流合同茶会（大阪）	43
第56回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）	44
第48回チャリティー大茶会（北九州）	44
杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）	45
宇井あきら先生・追悼コンサート（東京）	45
彩季会チャリティーバザー（東京）	45
各地のウォーキング大会で募金活動（小金井、東松山）	45
その他の事業	46
西部朝日福祉助成金（九州、沖縄、山口）	46

主な後援・協賛・協力事業一覧表	47
チャリティー美術展に出展いただいた皆様.....	54
ご寄付をいただいた皆様.....	66
朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオのご案内.....	73
里親家庭で生活する「子どもの権利ノート」のご案内	75
朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ	76
2010年度収支計算書	78
理事・監事・評議員名簿.....	79
お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿.....	80

東日本大震災

東日本大震災救援募金 朝日新聞社と協力、日本赤十字社などへ6億円を第1次寄託

2011年3月11日午後2時46分の大きな地震、その後に続く岩手、宮城、福島など東北・関東地方の太平洋沿岸部を襲った巨大津波は、2万人を超える方々が死亡・行方不明になる大惨事をもたらしました。

三陸地方沿岸では、まち自体が跡形もなく流され、破壊しつくされました。多くの方々が被災し、50万人を超す人が避難生活を余儀なくされました。時間が経ち、その状況が明らかになるにつれ、日本だけでなく、世界の人々が、その惨状に言葉を失いました。東日本大震災と名づけられたこの災害は、東北地方を中心とした多くの人々に、あまりにも大きな犠牲を強いるものとなりました。

●震災翌日から募金開始

そのとき、朝日新聞東京本社（東京都中央区築地）の新館9階にある、朝日新聞厚生文化事業団の事務所も大きく、長い横揺れに見舞われました。ほどなく、事務所内の小さなテレビから津波の映像が流れ始めました。

その直後に、私たちは翌日に東京都内で予定されていたJC-NET（ジョブコーチ・ネット）会議を中止するとともに、まだ名称も固まっていなかった、この大地震と津波で被災された方々への募金活動の開始を決断しました。朝日新聞社と協力して、すぐさま紙面での「お知らせ」の準備にとりかかり、現金書留での受け付けを東京の事務所で、郵便振替を大阪事務所で担当することにしました。壁板にひびが入った事務所で、職員6人が床の上やいすで仮眠を取りながら作業をしているうちに、夜が明けました。

「東日本大震災救援募金」受け付け開始の「お知らせ」が12日付の朝日新聞朝刊社会面に掲載されると、現金書留と郵便振替、直接持参でのご寄付が文字通り、殺到しました。さらに17日からは銀行振り込みによる受け付けも始めました（4月15日からは事業団ホームページでのクレジットカード募金も追加しました）。

●3月末で11億円に

「東日本大震災救援募金」に寄せられたご寄付は、3月末時点で海外からも含めて4万9163件、総額11億1704万5807円に上りました。

救援募金の受け付け額が10億円を超えた3月24日に第一次寄託分の配分を決め、日本赤十字社に2億円、岩手、宮城、福島、茨城の各県社会福祉協議会に1億円ずつの計6億円を同月中に送りました（その後、4月21日に第2次寄託分として、日本赤十字社、岩手県災害義援金募集委員会、宮城、福島両県災害対策本部に各2億円の計8億円と、さらに青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、長野の7県で災害ボランティアセンターを開設している市区町村社会福祉協議会に300万円ずつを送ることを決めました）。

東日本大震災救援事業 障害のある人のため、事業団独自の事業にも着手

救援募金とは別に、私たちは災害に際して、さらに過酷な状況に置かれることとなる、障害のある人、子ども、高齢者に焦点をあてた独自の救援事業を進めていくことにしています。

3月末には、①障害のある人たちの全国ネットワーク（D P I 日本会議、全国自立生活センター協議会、東京都自立生活協議会、ゆめ風基金ほか）で、震災直後から現地での救援活動を始めた「東北関東大震災障害者救援本部」の岩手、宮城、福島の現地本部設立と②福島第一原子力発電所の事故により避難を余儀なくされた、いわき市在住の障害のある人たちの東京都新宿区の戸山サンライズへの受け入れと生活費——のために、合計1500万円を出しました。また、社会福祉法人A J U自立の家に500万円を贈り、主に被災地の避難所で障害のある人や高齢者がプライバシーを確保できるようにするための間仕切りを設置する資金に充てていただきました。

この合計2000万円は、当事業団に寄せられた救援募金とは別に、10年度の事業会計（自己資金）から出しました。

救援募金のうち、ご寄付いただいた方のご意思が確認できたものについては、私たち朝日新聞厚生文化事業団独自の救援事業のための資金として活用させていただくことにしています。11年度は、これを元に私たちが独自に計画して実施する救援事業を本格化させていく予定です。

●孤児への「応援金」

例えば、「津波で親を亡くしてしまった子どもたちのために使ってください」という多くの方々からの声に応えるために、この震災で両親を亡くした子ども（孤児、5月現在142人）への「応援金」を考えています。この「応援金」は、それぞれの年代の子どもたちが18歳を迎えるまで、少なくとも安心して暮らせることのできるような、まとまったお金を、すべての孤児に直接、渡すのが目標で、自治体をはじめ各方面に働きかけながら、準備を進めています。

●グリーフキャンプも準備

また、喪失体験への癒しに中長期的に向き合うための「グリーフ（悲嘆）ケア」に視点を置いて、社団法人日本キャンプ協会や財団法人日本YMCA同盟とともに、震災にあった子どもたちのための「グリーフキャンプ」の準備も進めています。キャンプにかかわる人の養成を含め、丁寧に、少なくとも5年以上にわたって現地の子どもたちと向き合える活動を目指しています。

被災地での復旧・復興が徐々に進み出すころには、避難所や再開した幼稚園・保育園、小・中学校、障害のある人や高齢者の施設に音楽家らと一緒に訪問し、ひとときの安らぐ時間や楽しい時間を過ごしていただけるような訪問事業の開始に向けて、現地との調整などを始めています。そのほか、壊滅した高齢者施設を含め、コミュニティーを失った地域での高齢者の生活を支援できるような事業も検討しています。

朝日新聞厚生文化事業団の、今後の東日本大震災救援事業に引き続き、みなさまのご協力をいただきますようお願いいたします。

子 ども の 福 祉

80周年記念事業

子どもへの暴力防止プロジェクト助成

10年度は21団体に4017万円を贈呈 3年で計62団体、総額1億4522万円に

当事業団、朝日新聞社主催。厚生労働省、テレビ朝日福祉文化事業団後援

1928年（昭和3年）に創立した当事業団の80周年記念事業として、2008年度から創設した「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」の最終年となった3年目は、全国の21団体に計4017万円を贈呈しました。3年間の助成は、計61件（62団体・グループ）、総額1億4522万円になりました（3年間に助成した団体は次ページ以降の表の通り）。

この事業は、次代を担う子どもたちが暴力や虐待の被害に遭わず、安心して暮らせる社会を築くことを目指すものです。

地域で活動するグループや団体に光が当たり、一人でも多くの人々が、子どもへの暴力防止に関心を持ち、新たな活動が生まれることを助けることを狙い、暴力の防止や予防の啓発事業、暴力（虐待）を受けた経験のある子どもたちへのケアなどを担う、地域の小さなグループから全国的に活動する団体までを対象に、取り組もうとするプロジェクト（事業）を支援するために助成しました。

08年度からの助成予定総額が1億5千万円という規模に加え、①1団体当たりの助成額に原則として制限を設けない②年度を越える事業も認める③プロジェクトに要する人件費を助成額の30%まで認める——など、これまでの他の助成事業にはなかった特色を盛り込みました。対象のテーマを「子どもへの暴力防止」にしぼったことも合わせて、関係各方面から注目を集めました。

10年度は募集を5月7日に開始し、7月2日の締め切り時には全国から142件の申し込みがありました。実地調査も含めて当事業団内に設けた選考委員会による3次の選考の末、21団体・グループ、総額4017万円の助成を決定しました。

厚生労働省が定めた「児童虐待防



贈呈式に集まった東日本の9団体の代表（上）と
西日本の12団体の代表（下）

【子どもへの暴力防止プロジェクト助成を１０年度に受けた２１団体】

所在地	団体名	代表者名 (決定時、敬称略)	プロジェクト内容
北海道 札幌市	札幌市福祉生活支援センター	代表理事・松本 秀秋	社会的養護が必要な青少年の自立援助ホームを運営
福島県 福島市	福島県歯科医師会	会長・金子 振	歯科医師用に虐待の早期発見マニュアルを作成
福島県 いわき市	DV被害を考える会	代表・北村 朋子	家庭内暴力被害者のシェルター運営と子どもへの学習指導
茨城県 稲敷市	茨城県稲敷地区更生保護女性の会	会長・中澤 あさ子	食事会・誕生会などで自立援助ホームを支援
埼玉県 新座市	ポルノ被害と性暴力を考える会	代表世話人・宮本 節子	ポルノ被害を実態調査、被害防止シンポジウム開催
千葉県 市川市	ボラリスプロジェクト日本事務所	代表理事・デレックエー ーマン	児童買春・ポルノ被害の相談サイト体制を強化
東京都 新宿区	子どもNPO・子ども劇場全国センター	代表理事・稲垣 秀一	子育て支援電話「ママパライン」を全国展開
東京都 豊島区	東京都学童保育連絡協議会	会長・土田英夫	学童クラブ・児童館指導員らに虐待防止を啓発
埼玉県 小平市	子ども∞幸せ円卓会議 in こだいら	代表・岩嶋 寿子	暴力防止の対処法も含めて地域でさまざまな催し
三重県 桑名市	MCサポートセンター	理事長・松岡 典子	ゆさぶられ症候群予防プログラムのDVDを翻訳・啓 発
京都府 京都市	双子の会	代表・北庄司 智美	多胎家庭向け読本を作成、援助技術講習会を開催
大阪府 大阪市	暴力防止情報スペース・A P I S	理事長・木村 ゆかり	子どもへの暴力について生の声を聞く「生きている図 書館」を開催
大阪府 大阪市	大阪市学童保育連絡協議会	会長・平良 和博	虐待防止で「子どもの笑顔があふれる街づくり」
大阪府 茨木市	女性グループ翼（ウィング）	代表・はたの まさこ	子どもへの性暴力に緊急対応する連携体制づくり
大阪府 泉佐野市	泉佐野子ども家庭サポーター協 議会	会長・南 ルリ子	虐待防止アドバイザーの相互交流と研修を実施
岡山県 岡山市	岡山県学童保育連絡協議会	会長・吉田 靖弘	学童保育指導員と保護者に虐待防止学習会を実施
岡山県 岡山市	子どもシェルターモモ	理事長・東 隆司	自立援助ホーム利用者らの地域生活・自立を支援
広島県 広島市	ビピオ子どもセンター	理事長・鶴野 一郎	暴力を受けた子どもの一時避難所の開設・運営
福岡県	田川地区子育てネットワークた んたん	代表・馬場崎 瑞恵	市、県立大と共同で地域の子育て力向上を目指す
福岡県 筑紫野市	Nっ子クラブ カンガルーの親 子	代表・登山 万佐子	低出生体重児とその家族への支援事業
福岡県 遠賀郡	九州ぼうけん王	代表・大西 清文	社会的養護が必要な子どもの冒険キャンプ
21件 助成総額 4017万円			

【子どもへの暴力防止プロジェクト助成を〇9年度に受けた21団体】

所在地	団体名	代表者名 (決定時、敬称略)	プロジェクト内容
青森県 鰺ヶ沢町	鰺ヶ沢町にCAPを普及させる会	代表・菊谷 尚久	鰺ヶ沢町内の全小中学校と特別支援学校でCAPワークショップを実施
青森県 鰺ヶ沢町	養護学校にCAPを呼び会	代表・大澤 雅子	
宮城県 石巻市	あじ朗志組	局長・桶谷 敦	子どもがいない網地島への仙台市内児童養護施設の子どもたちの招待と、島内高齢者との交流事業
埼玉県 朝霞市	朝霞手をつなぐ育成会	代表理事・田中 泰江	発達障害の子どもの母親が笑顔で子育てができるよう、講習やワークショップなどを実施
埼玉県 新座市	児童相談所一時保護所における子どもの権利保障研究グループ	代表・浅井 春夫	児童相談所一時保護所に入所する子どもたちの実態調査と危機管理実践マニュアルの作成
東京都 新宿区	チャイルドライン支援センター	代表理事・清川 輝基	チャイルドラインフリーダイヤル周知のシール配布と一般向け「実践的聴き方講座」開催
東京都 大田区	てのひら～人身売買に立ち向かう会	代表理事・大塚 綾乃	民間シェルターを利用する女性の子どもたちをケアする子どもサポーターを育成
東京都 大田区	Triple P Japan	代表理事・梅野 裕子	「前向き子育てプログラム (Triple P)」の発達障害児向けプログラムの日本初のファシリテーター養成
東京都 清瀬市	子育てネットワーク・ピッコロ	代表理事・小俣 みどり	中学生が赤ちゃんに触れ、命の尊さを学ぶプログラムで、地域のジュニア子育てサポーターを養成
神奈川県 横浜市	子どもセンターてんぼ	理事長・影山 秀人	シェルタースタッフ及びボランティアが虐待や性被害を経験した利用者への対応方法を身につける研修
神奈川県 伊勢原市	子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク	理事長・山田 不二子	日本に Child First (司法面接士を養成するプロジェクト) 導入のためのトレーナー養成
愛知県 名古屋市	子どもの虐待防止ネットワーク・あいち	理事長・高橋 昌久	養育支援家庭訪問員のモデル地区での試行と、実施マニュアルの作成
石川県 かほく市	いしかわ多胎ネット	代表・大木 秀一	多胎児家庭に対するピアサポート活動の効果の実証と、ガイドラインの作成
大阪府 大阪市	ペアレンティングを支援する会	代表・榎木野 裕美	数ある親支援プログラムを親のタイプ別に体系化した冊子作成と研修会の開催
大阪府 大阪市	子ども情報研究センター	理事長・森山 康浩	食事を通して子どもたちと地域や大人とのつながりをつくるための「子ども炊き出しプロジェクト」実施
大阪府 大阪市	大阪市児童福祉施設連盟 養護部会 養育指標研究会	養護部会会長・中田 浩	児童福祉施設の子どもたちへの援助方法の確立のため、アンケート分析と報告書作成
大阪府 豊中市	ソーセージクラブ	代表・平尾 純子	多胎児家庭を支援するために、地域の支援者の組織化を図る事業
徳島県 石井町	石井福祉会	理事長・清重 佳久	母親へのメンタル支援、CAPなどを通して地域で子育てネットワークを構築
高知県 いの町	カンガルーの会	理事長・澤田 敬	虐待予防の知識、親への支援方法について実践指導できる「あまえ子育て」の指導者を養成。
福岡県 福岡市	子どもの村福岡を設立する会	理事長・満留 昭久	里親・里子及び実親支援のプログラムを開発し、社会的養護の支援体制を確立
福岡県 大木町	にじいろCAP	代表理事・重永 侑紀	児童福祉施設の「子どもの権利ノート」利用のテキスト作成と、ワークショップ開催
20件 助成総額 4545万円 (※「鰺ヶ沢町にCAPを普及させる会」と「養護学校にCAPを呼び会」は同じ町内の同趣旨の活動のため、2事業を1件として数えています)			

【子どもへの暴力防止プロジェクト助成を〇8年度に受けた20団体】

所在地	団体名	代表者名 (決定時、敬称略)	プロジェクト内容
埼玉県 上尾市	NPO法人 青少年の自立を支える埼玉の会	理事長・徳地昭夫	県内自立援助ホームで生活する児童へのソーシャルスキルトレーニングと職員の研修
千葉県 千葉市	社団法人 千葉県歯科医師会	会長・岸田 隆	1歳半と3歳児の健診未受診児童への家庭訪問による歯科健診で、暴力予防と早期発見
千葉県 木更津市	木更津市PTA連絡協議会	会長・森 正人	子どもへの暴力防止のためのCAPプログラムを、公立の市内全小中学校で実施
神奈川県 横浜市	子どもを性被害から守るクローバーキッズ協会	会長・渡辺久子	性暴力を受けた子どもへの対応マニュアルと、医療現場向け検査キットサンプルの製作
東京都 文京区	社会福祉法人 カリヨン子どもセンター	理事長・坪井節子	暴力を受けた子どものメンタルケアのためのデイサロンを開設
東京都 渋谷区	特定非営利活動法人 RRP研究会	理事長・澤部さよ子	DVの被害を受けた母子への総合的な介入教育プログラムの作成
東京都 清瀬市	日本社会事業大学専門職大学院 宮島ゼミナール	准教授・宮島 清	全国の里親支援機関の職員などを対象にした学習会や講演会の開催と啓発事業
新潟県 長岡市	特定非営利活動法人 女のスペース・ながおか	代表理事・荻野茂子	子どもへの性暴力予防を担う支援者養成のための啓発と研修事業
石川県 金沢市	子ども夢フォーラム	代表・高木真理子	大人を対象にした子どもへの暴力防止のための面接、電話による相談事業と相談員の養成
愛知県 名古屋市	社会的養護の当事者推進団体なごやかサポートみらい	会長・清水真一	児童福祉施設などの社会的養護で育った子どもたちの当事者による活動拠点づくり
愛知県 名古屋市	全国自立援助ホーム連絡協議会	代表・遠藤 浩	自立援助ホーム利用者の家族的背景や入所経過、退所までのケアなどの実態を全国で調査
大阪府 大阪市	社会福祉法人大阪キリスト教女子青年福祉会大阪YWCA大宮保育園	理事長・都木恵子	地域の子どもの暴力予防のための援助者養成研修と子ども向けプログラムの実施
大阪府 大阪市	Children's Views and Voices (CVV)	代表・中村みどり	日本の社会的養護で育った若者とカナダの当事者団体PARCのメンバーとの交流事業
大阪府 大阪市	社団法人 大阪府助産師会	会長・山口福美	助産師による24時間の無料電話相談
兵庫県 西宮市	MY TREE ペアレンツ・プログラム事務局	代表・森田ゆり	虐待する親の回復プログラム(MY TREEペアレンツ・プログラム) 広報のためのDVDなどの製作
兵庫県 神戸市	NPO法人女性と子ども支援センター・ウィメンズネット・こうべ	代表理事・正井禮子	中・高校生のためのデートDV防止のための出張授業(50校)。
香川県 高松市	NPO法人 子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ	理事長・中添和代	子どもへの暴力予防のための育児不安・困難を持つ母親のピアカウンセリング支援事業
福岡県 福岡市	社団法人 福岡県助産師会	会長・平田伸子	子どもへの暴力予防のための周産期医療従事看護職への啓発と研修
福岡県 大刀洗町	社会福祉法人慈愛会 清心慈愛園	施設長・平田牧男	児童養護施設で子どもへの暴力防止のためのCAPプログラムを開催。
宮崎県 宮崎市	ライツ オブ チャイルド みやざき	代表・西川かおり	虐待する親の回復プログラム(MY TREE ペアレンツ・プログラム) の実施とスタッフ養成研修
20件 助成総額 5960万円			

子どもへの暴力防止フォーラム（東京）

当事業団、J-CAPTA、朝日新聞社主催

厚生労働省、文部科学省、児童虐待防止全国ネットワーク、チャイルドライン支援センター後援

「子どものこえに耳を傾けること——『子ども被害者学』のススメ」をテーマに、「子どもへの暴力防止フォーラム2010」を10月30日、31日、東京・有楽町朝日ホールで開きました。このフォーラムは、08年度に始まった「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」事業が元になった企画で、前年12月に続いて2回目。初日は台風14号の影響で交通機関が混乱しましたが、子どもの虐待防止に携わる市民や専門家ら約500人が全国から集まりました。

オープニングでは、昨年富山で開かれた「子どもの権利条約フォーラム」で実行委員を務めた小・中・高校生の3人が「子



どもからのメッセージ」を披露。続いて子どもと女性への暴力に関する調査研究の第一人者、米国・ニューハンプシャー大学のデービッド・フィンケルホー教授が登壇しました。基調講演「子ども被害者学のススメ」や、『子ども中心』が被害を防ぐ～子どもの人権の視点』と題したエンパワメント・センター主宰の森田ゆりさんとの対談で、性的虐待やネグレクト、いじめ、貧困など、さまざまな「暴力」を子どもの立場から総合的にとらえて対応する必要性を説きました＝写真。

続いて、日本弁護士連合会子どもの権利委員会委員長を務める影山秀人さんが講演し、子どもの権利条約の「意見表明権」をめぐる議論や子どもの声を聴く難しさに触れたうえで、「いつも子どもを一人の人間として尊重する姿勢が必要だ」と訴えました。

31日は、性的虐待が半減するなど米国での子どもの暴力被害がこの20年間で減少しているという調査研究結果をフィンケルホー教授が報告、予防などの取り組みが成果をあげているとの見方を示しました。実践発表では、チャイルドライン支援センター、スクール・セクシュアル・ハラスメント防止全国ネットワーク、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」の3団体から、厳しい状況のなかで、さまざまな新しい取り組みが進められていることが報告されました。

昼休みにはポスターセッションもロビーで行われ、RANKA、カリヨン子どもセンター、子どもの虐待防止センター、児童虐待防止全国ネットワークオレンジリボン運動、SSHP全国ネットワーク、CAPセンターJAPAN、J-CAPTAが、それぞれの活動をPRしました。

午後からは『子ども中心』によって明らかになる暴力～性的虐待～と題したパネルディスカッションを行いました。日本での取り組みの現状や今後のあり方について、森田ゆりさんとカリ

ヨン子どもセンター理事長の坪井節子さん、国立成育医療研究センター医師の奥山真紀子さんが討論。子どもの声に耳を傾けることや子ども自身が対処法を考えて解決力を育む予防プログラム「CAP」などの重要性を確認しました。

フィナーレは、さまざまな表情の子どもたちの写真のスライドショー。大友剛さんのピアノ演奏に合わせて行い、2日間の日程を終えました。

80周年記念事業

児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

当事業団、朝日新聞社主催

当事業団設立80周年記念事業の一つで、児童養護施設や里親家庭で生活しながら、大学や短大、専門学校に進学を希望する高校生へ、入学時に必要な入学金、施設設備費と支度金10万円（合計100万円を限度）を贈るものです。10年度の募集では、8月20日の締め切りまでに102人の応募がありました。9月14日の選考会で26人が内定。最終的に辞退者を除いた24人に進学応援金が贈られました。応援金を受けたのは、事業開始以来の3年間で合計67人になりました。

児童養護施設や里親家庭から自立する子どもは経済的な理由など様々な理由から進学をあきらめざるを得ないケースが多く、一般家庭の子どもたちに比べ、極めて低い進学率となっています。学びたいのに、学べないという状況が、結果的に社会で活躍する機会を制限してしまっている状況があることから、彼らの進学率を少しでも高め、多くの高校生に将来への希望をもってもらえるよう、この取り組みを通じて支援したいと考えています。

贈呈を受けた高校生の集いを3月21日に東京・築地の朝日新聞東京本社で予定していましたが、東日本大震災の影響で、やむを得ず中止にしました。

今後は11年9月ごろをめどに、アンケートをお願いし、その後の状況などをお知らせいただく予定です。

当事業は11年度も実施の予定です。また、東日本大震災で被災した地域の子どもたちへの支援を拡充する予定です。

社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことのある人たちが中心になって活動するグループで結成

●全国ネットワーク設立

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことのある人たちが中心になって活動するグループと朝日新聞厚生文化事業団が、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」を4月に結成。以後、月に一度程度の定例会で情報交換をしながら具体的な活動について話し合っています。

●社会的養護

虐待をはじめ何らかの事情で実の親と離れて暮らさなければならない子どものために、家庭に

代わる養育の場として制度的に用意されているのが児童養護施設や乳児院、里親家庭などです。こうした制度を「社会的養護」と言い、現在全国で4万人以上の子どもがこの制度を利用しながら暮らしています。

社会的養護はもともと第二次大戦後に「戦災孤児の保護」のため整えられたもので、大きな見直しをされずに現在に至ります。その結果、日本の社会的養護は制度そのものが子どもに対する「社会的な虐待状態」にあると言われるほど、子どものニーズに応えられていない状況にあります。

虐待などの不安定な生活環境に置かれていた子どもは、心や体の成長に遅れや、かたよりがあることが少なくありません。そのため安心できる環境の中で周囲の人に大切にされながら、じっくりと養育を受けることが欠かせません。しかし社会的養護は原則として18歳までの子どもが対象であり、多くの子どもが高校卒業と同時に無謀とも言える自立を迫られます。さらに中学を卒業した時点で施設を退所する子どももいます。こうしたことにはじまり社会的養護には多くの課題があります。不安定な環境で育ってきた子どもに一層の困難を課しているのが実情です。

社会的養護を受けた子どもが若くして親となり、子どもを養育しきれず、その子どもが社会的養護を受けざるをえなくなるという連鎖が引き起こされることもあります。

●当事者活動

社会的養護がこれまで改善されなかった理由のひとつに、こうした子どものために声をあげる人が少なかったということがあります。多くの場合子どもの親は自分自身が困難な状況にあり、子どものために行動するのは容易ではありません。これまでは志のある施設職員や里親などが地道に声を上げていたに過ぎません。こうした中、今日注目されているのが「当事者活動」です。社会的養護を受けたことのある人による当事者グループが全国で活動を始めています。それぞれのグループが「子どもの声」を聞き、力を合わせ、様々な立場の人の協力を得ながら、社会的養護の改革の核となることが期待されます。

ピア・キャンプの開催（静岡）

当事業団、社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」主催
日本キャンプ協会、静岡県キャンプ協会後援、原田積善会協賛

結成したばかりの社会的養護の当事者グループ全国ネットワーク「こどもっと」の最初の事業として、「こどもっと」とともに、「ピア・キャンプ」を9月18日から20日まで静岡県立朝霧野外活動センターで開きました＝写真。



6都府県の児童養護施設や里親家庭で暮らす高校生と施設で暮らしたことがある「当事者」スタッフら、合わせて約50人が参加。富士山のふもとでサイクリングや野外炊事、キャンプファイアなどの活動とともにし、将来の夢などについても話し合いました。



朝日夏季保育大学（長野）

当事業団、朝日新聞社と共同主催。長野県、諏訪市、全国社会福祉協議会、長野県社会福祉協議会、長野朝日放送後援。大同生命厚生事業団協賛

保育従事者の技術と教養の向上のために始まり、57回目を迎えた朝日夏季保育大学を7月30日、31日に長野県諏訪市の駅前市民会館で開き、保育士をはじめ子どもを取り巻く問題に関心のある約500人が参加しました＝写真。

2日目には約4時間の“重点講座”を初めて開催。自閉症の人が安心して自信を持って暮らすための支援方法として開発され、環境をその人に合わせて整えることで「今何をするのか」、「次にどうなるのか」などを分かりやすくする「構造化」をテーマにしました。

駐車場の駐車位置の線引きも構造化の一例と言えるもので、だれにとっても分かりやすいこうした視覚的な情報が、特に発達にかたよりがある子どもの支えになることを児童精神科医の藤岡宏さんが解説し重点講座は始まりました。その後、構造化の実践を保育士と自閉症の子どもの母が具体的に発表。臨床心理士で横浜市東部地域療育センター通園部園長の幸田栄さんの講演では、より有効な支援をするための専門機関と幼稚園・保育園との協力などについても解説されました。

今回の保育大学を締めくくったのは絵本作家の長谷川義史さんで、その場で絵を描きながら進める「ライブ紙芝居」を実演しました。ウクレレの演奏も披露し、即興した替え歌は参加者との大合唱になるなど、会場はユーモラスでおおらかな「長谷川ワールド」に包まれました。

テーマと講師は次の通り（敬称略）。



【7月30日（金）】	
「もったいないばあさんの話」	真珠まりこ [絵本作家]
「子どもの心の健康～自尊感情の視点から」	古荘純一 [青山学院大学教授・児童精神科医]
「魅力いっぱい保育に生かすパネルシアター」	月下和恵 [パネルシアター作家、淑徳幼児教育専門学校講師]
【7月31日（土）】	
重点講座「はじめよう構造化～発達の気になる子どもの支援」	
「構造化と子ども」	藤岡 宏 [児童精神科医・つばさ発達クリニック院長]
実践発表	田岡三千代 [坂出育愛館（保育所）] 宮尾ひかり [自閉症の子どものお母さん]
「構造化の導入からふり返りまで」	幸田栄 [横浜市東部地域療育センター通園部園長]
「子どもたちが自信を持って暮らすために」	藤岡 宏、幸田 栄
「絵本でたのしく」	長谷川義史 [絵本作家]

第27回福祉施設絵画展（名古屋）

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会主催、当事業団など後援

名古屋市児童養護連絡協議会、名古屋市知的障害者福祉施設連絡協議会の福祉施設に入所、通所する人たちの作品を展示する絵画展を7月中旬から8月中旬に市内の新児童福祉センター、篠島観光協会案内所などで開きました。

27施設から654点の応募があり、特賞6点、入選35点、佳作60点が表彰されました。朝日新聞厚生文化事業団理事長賞は、「生き物を大切にしよう」を描いた小学校4年武田龍二さん（慈友学園）が受賞しました。

障 害 の あ る 人 の 福 祉

自閉症カンファレンスNIPPON～TEACCHモデルに学ぶ実践研究会（東京）

当事業団、自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会主催

厚生労働省、文部科学省、日本自閉症協会、全日本手をつなぐ育成会、日本知的障害者福祉協会後援

自閉症の専門会議としては国内最大級の「自閉症カンファレンス NIPPON 2010」を8月28日、29日、東京都新宿区の早稲田大学で開催、全国から約800人が参加しました＝写真。

日本の「TEACCH（ティーチ）」の実質的な実践の始まりは、1989年にプログラムの創始者、故エリック・ショプラー教授と3人のトレーナーを日本に招き、当事業団などが開いたセミナーです。日本の自閉症の人たちへの支援プログラムとして「TEACCH」は、この20年間で着実に根付いてきました。この間、「TEACCH」の考え方を柱に、自閉症の人への理解を深めようと集った有志と当事業団が中心になって開催してきたのがこのカンファレンスです。

9回目を迎えた今回は、米国・ノースカロライナ大学TEACCH部部長のゲーリー・メジボフ教授が最新情報を提供。「自閉症の人たちのライフステージに合わせた支援」と題して、「幼児期」「学齢期」「成人期」「就労」「地域生活」「親」、すべての場面（ステージ）での支援について、全体を整理して考察しました。また「構造化の背景－正しい評価」の講演では、自閉症支援の大きな柱である構造化について、アスペルガー症候群、高機能自閉症の人たちに焦点を当てて、正しい評価に基づいた支援の重要性を具体的に説明しました。

川崎医療福祉大学特任教授の佐々木正美さん、福島大学大学院教授でよこはま発達クリニック院長の内山登紀夫さんも「TEACCH」の取り組みの核心について語りました。また、日本国内での実践について、シンポジウムや3つの分科会で、全国から多彩な報告が行われました。

佐々木正美さんを中心にした実行委員会と、延べ100人を超える若いボランティアスタッフによって、カンファレンスは2日間、滞りなく運営されました。「自閉症を正しく理解する」支援者の輪をさらに広げ、新たな未来を拓いていけるよう、向上を目指します。



ゲーリー・メジボフ教授講演会「自閉症を正しく理解すること」（高松）

当事業団、TEACCHプログラム研究会香川支部主催

「自閉症カンファレンス NIPPON 2010」のため来日した米国・ノースカロライナ大学TEACCH部部長ゲーリー・メジボフ教授＝写真＝の講演会を8月31日に高松市の香川県民ホール「アルファあなぶきホール」で開き、約400人が参加し、熱心に耳を傾けていました。



原因がいまだ特定できず、理解の難しい自閉症。教育現場、専門家や親にさえ、正しく理解されていないことが多く、そのことがご本人たちの生活をするうえでの困難をさらに増やし、複雑にしています。メジボフ教授は「自閉症を正しく理解すること～自閉症の支援で最も大切なこと」と題して、「自閉症は脳の障害（damage）ではなくて脳の働き方の違い（difference）なのです」と説明したうえで、「その違いを正しく理解することが大切」と訴えました。

この講演会は、04年度から08年度まで、熊本、長野、京都、青森、奈良と毎年各地で開催。09年度はTEACCHプログラムの日本への本格的導入20周年を記念して札幌市と沖縄県豊見城市の2カ所で開きました。8カ所目の開催となった今回の高松でも、自閉症の人たちへの支援に取り組んでいる地元の関係者に多大なご協力をいただきました。この催しをきっかけに、自閉症の人たちへの支援の活動が地域で根をはり、充実するように、今後も各地の関係者と協力しながら、一步一步、活動を積み重ねていきます。

◇講演の概要

講師 ゲーリー・メジボフ・ノースカロライナ大学TEACCH部部長

内容 講演「自閉症の人たちの学習スタイル～特性を理解する～」

講演「構造化された指導～自閉症の特性に合わせた支援～」

講演「自閉症の支援で最も大切なこと～TEACCHプログラムのコア・バリュー～」

参加費 3000円

連続講座「自閉症の人たちの支援を考える」（沖縄）

当事業団、沖縄自閉症協会主催。名護市社会福祉協議会、名桜大学共催

自閉症の療育・支援の第一人者である内山登紀夫さん（福島大学大学院教授・よこはま発達クリニック院長）の沖縄での初めての講演会を12月25日に名護市の名桜大学で、翌26日に那

那覇市の沖縄総合福祉センター・ゆいホールで開催。両会場とも約300人が参加しました。「自閉症の人たちの支援を考える～ライフステージに合わせたトータルな支援～」をテーマに、2会場合わせて8時間の連続講座で、名護会場では第1部として「自閉症基礎講座～自閉症の子どもを正しく理解する」「ライフステージに合わせた支援～子どもから大人へのトータルな支援～」と題して、那覇会場では第2部として「自閉症の子どもへの教育～教育現場でのよりよい支援」「青年期・成人期に向けて～学校教育後の支援のみちすじ」と題して講演。発達障害の子どもたちを数多く診てきた内山さんの話に、参加者は聴き入っていました。参加費は各会場2000円（学生1000円）。

自閉症の子どもの自立課題の作り方講座（福井県敦賀市）

当事業団、福井県発達障害児者支援センター「スクラム福井」、NPO法人BON主催

「自閉症の子どもの自立課題作り方講座」を2月6日、福井県敦賀市福祉総合センター「あいあいプラザ」で開催しました。
＝写真。当事業団が企画・制作したDVD「親と教師のための自閉症の子どもの自立課題」の監修者でeサービス代表の中山清司さん、大阪府発達障害児者支援センターアクトおおさかの高橋亜希子さんを講師に迎え、グループに分かれて2人のモデルケースにあった自立課題を選んで作成、試しながら改良していくという過程をロールプレイで学びました。インフルエンザの流行と豪雪のためにキャンセルが相次ぎましたが、福井県全域から保護者や養護学校教諭、施設職員ら21人が参加しました。



ジョブコーチ・ネットワークフォーラム さいたま/JC-NET（熊谷）

当事業団、NPO法人JC-NET（ジョブコーチ・ネットワーク）主催。埼玉県後援

障害のある人たちを、就労の現場でどう支えるかという福祉の視点に加え、企業活動・就労にどう取り込んでいくかという企業側の視点でのアプローチが活発にされるようになりました。「ジョブコーチ」とは、障害のある人と企業の双方をサポートする役割を担う支援者のことです。

そのネットワーク「JC-NET（ジョブコーチ・ネットワーク）」は、当事業団の支援で2004年度に創設され、05年度にはNPO法人を取得して、厚生労働省指定の「職場適応援助者養成研修」などの事業を積極的に展開しています。

当事業団は、ジョブコーチの正しい理解、普及をはかり、障害のある人の就労を支援する人材

や資源を育成するために、J C-N E Tとの共同主催で10年度もジョブコーチ・ネットワーク（J C-N E T）フォーラムを実施しました。毎年3月に東京で開いているJ C-N E T（ジョブコーチ・ネットワーク）会議は東日本大震災のため中止しました。

■ジョブコーチ・ネットワーク（J C-N E T）フォーラム さいたま

ジョブコーチに関する情報提供による質的な向上と、障害のある人への就労支援の普及、地元ネットワークの創設のために各地で開催する「ジョブコーチ・ネットワークフォーラム」を埼玉県熊谷市で開催しました。

【と き】2010年6月19日午前10時～午後4時【ところ】熊谷市立文化センター文化会館

【参加者】約200人 【参加費】3000円

【内 容】

講演「就労支援の現在（いま）とこれから」（小川浩・大妻女子大学教授）

講演「就労移行支援と地域の支援ネットワーク」（志賀利一・のぞみの園研究課長）

シンポジウム「障がいのある人の就労を実現する地域の支える力～発信!! 就労支援のスピリッツを埼玉から～」①谷口正次（さいたま市日進職業センター）『福祉施設からの就労支援』②押切重喜（株式会社ウイングル）『企業が行う就労移行支援事業』③稲村義昭（障害者就業・生活支援センターかわごえ）『多様化する就労支援ニーズへの取り組み』④藤平俊幸（埼玉県発達障害者支援センターまほろば）『発達障害者支援センターの役割と地域連携について』⑤河崎誠司（埼玉県障害者雇用サポートセンター）『企業サポートの取り組みから就労支援者のあり方を考える』／司会：若尾勝己（障害者就業・生活支援センターZAC）／助言：小川浩＝敬称略

昼休みには市民ギャラリーでポスターセッションも開催。

■J C-N E T（ジョブコーチ・ネットワーク）会議は震災で中止

全国のジョブコーチが集う国内最大の会議「J C-N E T（ジョブコーチ・ネットワーク）会議」（J C-N E Tと共同主催）の開催を3月12日、13日に大妻女子大学・多摩キャンパスで計画。講演「いま、就労支援が求められていること」（J C-N E T代表の小川浩・大妻女子大学教授）やシンポジウム「企業とともに歩む 障害のある人への就労支援」、ワークショップ、実践発表などを予定していましたが、前日に起きた東日本大震災のため、急きょ中止しました。

第27回全国高校生の手話によるスピーチコンテスト（東京）

当事業団、全日本ろうあ連盟、朝日新聞社主催。厚生労働省、文部科学省、テレビ朝日福祉文化事業団、日本手話通訳士協会、全国聾学校長会後援。NEC協賛。東京都聴覚障害者連盟協力

手話の普及とボランティア活動、福祉教育の推進をはかるため1984年に始まった「全国高校生の手話によるスピーチコンテスト」は、27回目を迎えました。8月28日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで行われた本選では、原稿と映像の審査で選ばれた10人が舞台に立ち、手話と音声と同時に使ったスピーチで日ごろの練習の成果を競いました。開会式では、秋篠宮妃殿下が手話をまじえて「自分の思いや考えを豊かな手話で表現してください」と述べました。

今回の応募は、昨年と同数の71人。1位に選ばれたのは、「モノと幸せ」をテーマに発表した北海道・室蘭栄高校3年の細川絢加さん＝写真。母に買ってもらったがなくなしてしまったハサミへの愛着を語り、「モノを大切に長く使い続けようと心がければ、人は幸せになれるのではないのでしょうか」と訴えました。2位の東京都立大泉桜高校2年・芹沢瞳さんは「感謝の気持ちを形に」という題で、感謝の気持ちを表すことの難しさや、大切さを語り、3位の東京・愛国高校3年の齋藤美香さんは「私にとっての『手話』」をテーマに、スピーチしました。奨励賞は大分県・楊志館高校3年の山元友起さんと、神奈川県立横浜南陵高校3年の松永奈美さん。入賞者には賞状とトロフィー、協賛のNECからノートパソコンや電子辞書などの賞品が贈られました。参加者全員にNECから、手話スピーチの録画DVDと記念品が贈られました。



特別プログラムは、生まれつき耳が聞こえない、ドキュメンタリー映画監督の今村彩子さんが「映画とともに生きる社会を」と題して講演。国内だけでなく、海外への積極的な取材活動での体験を披露しながら、高校生らを励ました。

審査員は小椋英子・日本手話通訳士協会会長、矢田宏人・厚生労働省障害保健福祉部企画課自立支援振興室長、宮本一郎・東京都聴覚障害者連盟理事長、西滝憲彦・全日本ろうあ連盟理事、浜田陽太郎・朝日新聞論説委員のみなさんに務めていただきました。

高次脳機能障害についての講演会（東京、大阪、福岡、名古屋）

当事業団、朝日新聞社主催。日本脳外傷友の会、大同生命厚生事業団など後援

交通事故や脳卒中などで、後天的に脳損傷を受けた高次脳機能障害の人は、日常生活の中でさまざまな問題に直面しています。しかも外見からは障害がわからないため、一般の人たちだけでなく医療や福祉関係者の理解も十分とは言えません。当事業団は前年度に引き続き、当事者やその家族が安心して地域で生活するために、高次脳機能障害の人たちをどのように地域で支援すればよいのかを考える講演会「高次脳機能障害のひとを支援する」を東京・有楽町朝日ホールで1月22日に、大阪YMCA会館で2月26日に開催しました（参加費1000円）。また、前年度、東京と大阪で実施したものと同様の講演会「高次脳機能障害を理解する」を福岡・明治安田生命ホールで7月18日に、名古屋・朝日ホールで7月25日に開きました（参加費無料）。

●講演会「高次脳機能障害のひとを支援する」〈東京・大阪会場〉

3回の脳出血の後遺症で物が平面的にしか見えず、段差に気づかず転倒しやすいなどの高次脳

機能障害がある医師、山田規畝子さんが、当事者の立場からこの障害への理解が広まる必要性を訴えました。

国立成育医療研究センター医師の橋本圭司さんが「高次脳機能障害の基本的な理解」と題して講演。大阪会場で橋本さんは「インフルエンザ脳炎を発症し、後遺症が残った子どもは、医師から『発達障害』と診断され、18歳になった時には『高次脳機能障害』と呼ばれ、高齢期を迎えると『認知症』になる」と述べ、その度に福祉サービスが分断されることを問題として指摘しました。

「当事者からのメッセージ」と題して、山田さんに橋本さんがインタビューするかたちでの対談も両会場で実施＝写真。「よい医師を育成するにはどうしたらよいのか」という橋本さんの問いに、山田さんは、人を人として見ることの大切さと、医師や看護師、作業療法士などの専門家と一緒に生活をしながら学び合う場をつくるというご自身の夢を語り、「深刻な症状も笑い飛ばせるようなユーモアのある生活が大事」と結びました。



続いて神奈川工科大学教授の小川喜道さんをコーディネーターにシンポジウム「地域の自立支援のあり方をさぐる」を開催。小川さんは「高次脳機能障害の人たちに対する生活支援はまだ入り口の段階だが、既存の制度を大いに活用し、まずはスタートさせることが大切だ」と締めくくりました。

東京会場に約400人、大阪会場には約350人の医療や福祉の専門家、家族らが参加しました。

(東京会場は、NPO法人日本脳外傷友の会、NPO法人東京高次脳機能障害協議会、サークルエコー後援。大阪会場はNPO法人日本脳外傷友の会、頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会、NPO法人大阪脳損傷サポートセンター、堺脳損傷協会、大同生命厚生事業団後援)

●講演会「高次脳機能障害のひとを理解する」〈名古屋・福岡会場〉

福岡と名古屋では初めて開催しました。福岡会場は特に盛況で約320人が、名古屋会場は約290人が参加しました。

高次脳機能障害を題材に製作され、話題を集めた映画「ガチ☆ボーイ」のメイキングビデオを上映した後、競輪選手時代、トレーニング中の交通事故で高次脳機能障害（記憶傷害）を負った石井雅史さんと妻の智子さんが、国立成育医療研究センター医師の橋本圭司さんとてい談。雅史さんはリハビリを続け再び自転車競技に取り組み、しだいに症状が改善した経過を話し、「やりたいことを見つけ、勇気を持って外の世界に一步を踏み出すことが大事」と訴えました。また、智子さんは「周囲の理解が得られず、苦勞している家族へのサポートも必要」と話しました。

てい談の後、福岡会場ではNPO法人日本脳外傷友の会理事長の東川悦子さんと福岡市小規模作業所・翼に通所する安邊真志さんの対談、名古屋会場では高次脳機能障害の長男がいる、なやクリニック医師の納谷敦夫さんによる講演「地域での支援を考える」を行いました。

(福岡会場は日本脳外傷友の会後援、福岡・高次脳機能障がい者と共に歩む翼の会「福岡・翼

の会」協力。名古屋会場はNPO法人日本脳外傷友の会、名古屋市総合リハビリテーション事業団後援、NPO法人脳外傷友の会みずほ、NPO法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」、高次脳機能障害を考えるサークル・フレンズ、くも膜下出血友の会「くるみ」協力)

なるほど！納得！！高次脳機能障害 in NAGOYA/TOYOHASHI (愛知)

NPO法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」主催。当事業団後援

高次脳機能障害のひとの支援施設を運営しているNPO法人「笑い太鼓」が、高次脳機能障害についての正しい理解と支援の輪を広げていく講座をシリーズで実施しました。

名古屋市の朝日ホールで12月5日、「いきいき暮らす視点 始点 支点～地域で進めるあきらめない回復支援」をテーマに開催され、約240人が参加。成城リハビリテーションクリニック医師の長谷川幹さんと、障害者通所施設ケアセンターふらっと施設長の和田敏子さんの話を聞きました。

さらに11年2月12日に朝日ホール、翌13日には豊橋市総合福祉センターあいトピアで、「わかり合う～医療と家族と支援者と」のテーマで、中島恵子・帝京平成大学教授（心理学）の講演や座談会が開催されました。名古屋会場は約290人、豊橋会場は約170人の参加があり、多くのアンケートが寄せられました。

「あなたのうつ 私のうつ となりのうつ ～みんなでうつを考えよう～」(東京)

当事業団主催。地域精神保健福祉機構、全国精神保健福祉会連合会後援

「うつ」の基本的な理解を深め、当事者とその家族、周囲の人が、「うつ」とどう向き合っていけばよいのかを考え、支援の手がかりをつかむための講演会を11月3日、東京・築地の浜離宮朝日ホールで開きました。精神科医で立教大学教授の香山リカさんの基調講演＝写真＝と、東京・府中市の根岸病院の看護師の池田真砂子さんの講演、池田さんと当事者の対談に、「うつ」の当事者や家族も含め、約300人の参加者が聴き入りました。

香山さんは、「うつ」に関するよくある質問や疑問に答える形で、うつ病研究の現状や治療の柱である休養と服薬の効果や、当事者と医者や家族のかかわり方などをわかりやすく解説しました。また、「うつ病」で休職し、その後復職訓練を受け、再就職を果



たした当事者の男性が、『うつ』の人はいっぱいおり、温かく見守ってほしい」と、「うつ」に苦しむ人が身近なところにいる人に向けて訴えました。最後に、池田さんが時期に合わせた支援の実際について報告。働く人が「うつ」になった時に使える制度や機関などを紹介しながら、「復職後も、エネルギーをためるために『3割仕事』を合言葉にしてください」と語りました。

視力障害の大学生のための「聖明・朝日盲大学生奨学金」(東京)

当事業団、聖明福祉協会主催

視力障害のある大学生を支援する「聖明・朝日盲大学生奨学金」の貸与式が7月3日、東京都内のホテルであり、第42期生の2人に目録が手渡され、2人の門出を祝いました＝写真。この奨学金は、国内初の視力障害学生を対象とした奨学金制度として1969年に創設され、進学希望者の向学心を支えてきました。貸与者総数は191人となりました。

貸与式では、本間昭雄・聖明福祉協会理事長が奨学金40周年の記念誌の内容に触れながら、「素晴らしい活躍をしている視覚障害の仲間が大勢いるのは大きな誇りだ。社会で大きな働きをしている先輩に続くように努力してください」と奨学生を励ました。続いて、山田雄一・朝日新聞厚生文化事業団事務局長が2人に目録を手渡しました。矢田宏人・厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室長は、「これまでの経験を生かし、持っている力をこれからも発揮してほしい」「ぜひ思いを実現してほしい」とそれぞれに言葉をかけました。

近年は障害のある学生へ門戸を開く大学の数は増え、点字での受験が認められたり、障害者支援室が設けられたりしています。今後、さらにバリアフリー化が進むことが望まれます。

歴代の貸与者の中には、弁護士や大学教授、市議会議員、ピアニストなど、さまざまな分野で活躍する人が少なくありません。



「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」（東京）

内閣府主催。当事業団ほか後援

「障害者週間の集い」が12月3日、東京都港区の日本学術会議講堂で開かれました。「心の輪を広げる体験作文」「障害者週間のポスター」の最優秀賞を受賞した5人に、岡崎内閣府特命担当大臣（代理）から表彰状が贈られ、作文の受賞者3人が自作を朗読しました。最優秀賞の受賞者は以下の方々です（敬称略）。

【作文部門】

大阪市立扇町小学校6年 小西朱梨、兵庫県・三田学園中学校2年 武智南帆
神奈川県立座間養護学校高等部1年 保田健太（相模原市）

【ポスター部門】

長崎県南島原市立野田小学校5年 岩永千聖、愛媛県松山市立久米中学校3年 池内麻里菜

第29回肢体不自由児・者の美術展（東京）

日本肢体不自由児協会主催。厚生労働省、文部科学省、当事業団など後援

第29回肢体不自由児・者の美術展の入賞者の表彰式が12月2日、東京・池袋の東京芸術劇場であり、絵画と書の2作品に朝日新聞厚生文化事業団賞を贈りました。

入賞者のうち、主な特賞は次の通りです（敬称略）。

【厚生労働大臣賞】

絵画 黒田薫（広島市）、書 和本純（和歌山県海南市）

【文部科学大臣奨励賞】

絵画 池田誠（佐賀県立うれしの特別支援学校中学部3年）
書 鳥巢希実花（東京都・筑波大付属桐ヶ丘特別支援学校小学部3年）

【東京都知事賞】

絵画 渡辺美保（東京都立北特別支援学校高等部2年）、川岸冨子（東京都・アートクラブフープ）

【朝日新聞厚生文化事業団賞】

絵画 野上政義（北海道・北広島リハビリセンター）
書 丸山美紀子（新潟県立上越養護学校中学部3年）

第39回聴美会展（名古屋）

中部聴力障害者美術同好会主催。愛知県、名古屋市、当事業団など後援

聴覚障害の美術愛好家らが自主運営する美術展「聴美会展」が8月3日から8日まで、名古屋市民ギャラリーで開催されました。24人から絵画23点、写真30点、工芸40点の計93点が出品され、最優秀賞の朝日新聞厚生文化事業団賞は、工芸の本間豊子さんが受賞しました。

第45回名古屋市障害者作品展示会

名古屋市、名古屋市身体障害者福祉連合会主催。当事業団など後援

第45回名古屋市障害者作品展示会が12月21日から26日まで、名古屋市博物館で開かれました。4歳から85歳までの障害のある人が制作した書道47点、絵画57点、写真29点、手芸44点、工芸43点の5部門220点を展示。期間中833人が見学に訪れました。当事業団は「朝日賞」として5部門に楯と賞状を贈りました。

第48回心身障害問題を考える集い（名古屋）

社会福祉法人あさみどりの会主催。当事業団後援

第48回心身障害問題を考える集いが6月19日、名古屋市中村区の愛知県産業労働センター「ウインクあいち」で開かれ、「日本の福祉の未来を描く」をテーマに講演と対談がありました。

「DPI（障害者インターナショナル）日本会議事務局長で、障がい者制度改革推進会議総合福祉部会構成員として積極的に発言している尾上浩二さんが講演し、障害者自立支援法を廃止して新たに制定を目指す法制度の内容をどうするのか、日本の福祉の未来を拓くことが出来るのかについて、その鍵は人づくりにあると体験を交えて語りました。島崎春樹・あさみどりの会理事長との対談では、さまざまな角度からの提案を国に出していくことなどを論議し、制度だけで支援するのではなく、地域に暮らす人たちで地域生活を支えていくというメッセージに、約100人の参加者は聴き入っていました。

第31回障害者歩くスキーの集い（札幌）

当事業団、朝日新聞北海道支社主催。三菱電機株式会社協賛

障害のある人もない人も一緒に歩くスキーをマイペースで楽しむ「第31回障害者歩くスキーの集い」（朝日新聞北海道支社など主催、三菱電機協賛）を1月16日、札幌市南区の滝野すずらん丘陵公園で開きました＝写真。

今年で31回目を迎える本大会には140人が参加。晴天の雪景色を楽しみながら、子どもから高齢者までさわやかな汗を流しました。

今年も1キロ、3キロ、5キロ、7キロの4種目にわかれ、各自がそれぞれのペースに応じて、新雪の滑りを楽しみました。ボランティアも多数、運営に加わり、大会を盛り上げました。



第31回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会（沖縄）

九州車椅子バスケットボール連盟、当事業団主催

第31回朝日九州車いすバスケットボール選手権大会が11月27日、28日、沖縄県の沖縄市体育館で開かれ=写真、九州・沖縄の各県から参加した11チームがトーナメント方式で戦った結果、太陽の家スパーズ（大分）が6連覇を果たしました。

今大会の注目は、九州で常勝を誇る太陽の家スパーズに、過去5回連続で決勝で挑戦してきた沖縄のSEASIRS（シーサーズ）が6度目で初めて雪辱できるのか。予想通り決勝に進んだ両チームは、第3クォーター終了時で同点という接戦を繰り広げ、太陽の家スパーズが最終クォーターで突き放し、50-43で優勝を決めました。優勝を逃したSEASIRSの代表は「毎回接戦で負けるパターンだ。県内に車いすバスケのチームが1チームしかなく、自分たちだけの練習しかできない。試合運びの差が出た」と悔しがっていました。

3位決定戦でHAGAKURE Danger（佐賀）を下した佐世保WBC（長崎）も、上位2チームとともに、11年5月に東京で開催の第40回日本車椅子バスケットボール選手権大会への出場権を獲得しました。



第22回九州車いすツインバスケットボール選手権大会（大分県宇佐市）

九州車椅子バスケットボール連盟、九州車椅子ツインバスケットボール委員会主催
社会福祉法人太陽の家、当事業団共催

ツインバスケットボールはフリースローサークルの中にもう一つ低いゴールがあるのが特徴です。下肢だけでなく上肢にも障害がある人も参加でき、日本で考案されました。

高低2つのゴールがあることで、障害の重い選手もシュートをうつことができます。選手は障害の程度によって狙えるゴールが決められているなど、選手一人ひとりが障害の程度に応じて存在感を発揮でき、達成感を感じることができる競技です。

第22回九州車いすツインバスケットボール選手権大会は、九州、沖縄から12チームが参加して9月11、12日の両日、大分県宇佐市のかんぼの郷宇佐体育館で開かれました。

決勝は昨年に引き続き、沖縄フェニックス（沖縄）と太陽の家ブレイカーズ（大分）の対戦となり、沖縄フェニックスが61対51で太陽の家ブレイカーズを下し、9年ぶり2回目の優勝を

果たしました。

日頃の練習時から、お互いの障害の程度を把握し、意思を通じ合わせてつちかった正確なパスが必要な競技らしく、試合に出ていない選手たちもコート上の仲間に大きな声援と拍手を送っていました。

高 齢 者 の 福 祉

高齢者への暴力防止プロジェクト助成

当事業団、朝日新聞社主催。厚生労働省、テレビ朝日福祉文化事業団後援

だれもが心豊かに安心して老後を暮らせる社会の実現をめざし、全国各地で高齢者への暴力・虐待を防ぐ取り組みをする団体を支援する「高齢者への暴力防止プロジェクト助成」を10年度に立ち上げました。

地域で、家庭で、施設で、高齢者が大切に扱われる社会。自尊心が守られ、穏やかな毎日を過ごす社会——それはだれもが心豊かに安心して生きていける社会です。高齢者への暴力、虐待のかたちはさまざまです。孤立させたり、孤独な毎日を送っている方に気づかぬ振りをしたりするのも社会的虐待なのです。虐待を未然に防ぐきっかけは、あなたの身近にあるかもしれません。

こうした考えから、高齢者を暴力、虐待から守るための、あらゆる活動を応援するのが狙いです。

今回は1件上限100万円で総額1000万円の助成を予定。11月に募集を始め、11年1月18日の締め切りまでに47件の応募がありました（1件はキャンセルとなり審査対象は46件）。締め切りの後、当事業団職員による直接訪問や電話取材などが進められ、4月中旬の審査会で助成する12団体を決定、5月上旬には朝日新聞の生活面で発表しました。贈呈した団体の活動の様子は随時、当事業団のホームページなどで報告していきます。

助成の対象・内容は下記の通りです。

- ◆2011年5月～12年4月までに行われる事業（プロジェクト）
- ◆高齢者への暴力、虐待の防止、予防、ケア、教育、啓発に携わる団体、グループの新たな事業（プロジェクト）
- ◆地域で活動する高齢者サークル、自治会、町内会、高齢者支援グループ、団体などが行う虐待防止につながる事業（プロジェクト）
- ◆営利を目的としない民間団体・グループであること（法人格の有無は問いません）
- ◆高齢者への暴力防止事業のための資金で、事業の意図や内容、計画に実現性があり、以下のような条件にあてはまるもの
 - ・新しく試みる先進的、独創的な事業（プロジェクト）
 - ・地域における貢献と広がりが期待できる事業（プロジェクト）
 - ・暴力や虐待を受けた高齢者を直接守る活動
 - ・暴力や虐待防止につながる取り組み

例）暴力や虐待防止のためのスタッフ養成・研修プログラム、子どもや一般市民に対する啓発イベント、講演会や研修会、地域の見守り活動、啓発や養成・研修のためのガイドライン・テキスト・ガイドブックなどの制作、「虐待」を受けやすい環境を防ぐための、認知症高齢者や家族へのサポート活動、高齢者を社会的虐待から守るための市民のネットワーク作り

高齢者フォーラム「これからの介護のかたち～こちよい介護をめざして～」(東京、大阪)

当事業団、朝日新聞社主催。公益社団法人「認知症の人と家族の会」後援

高齢者フォーラム「これからの介護のかたち～こちよい介護をめざして～」を9月20日に大阪市西区の大阪YMCAホール、9月23日には東京・築地の浜離宮朝日ホール＝写真＝で開き、いずれも約200人が参加しました。

高福祉の国で知られるデンマークは、国民の幸福度が世界で1位とされています。幸福度では90位とされる日本に住む、私たちが「これからの介護のかたち」を考えると、デンマークの福祉に何かヒントがあるのではないのでしょうか？

デンマークで43年間暮らしながら「福祉の架け橋」役として、日本でもさまざまな活動を繰り広げるバンクミケルセン記念財団理事長の千葉忠夫さん、認知症の母親を7年間介護した経験のある作家・落合恵子さん、「在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」の副会長としてデンマークをたびたび訪ね、その体験を生かして国内での医療・福祉の改革に取り組んでいる新田國夫さんの3人を講師に迎えました。コーディネーターもデンマークの福祉事情に詳しい、元朝日新聞論説委員の大熊由紀子さんに務めていただきました。

はじめに千葉さんからデンマークの現状報告がありました。デンマークでは、民主主義という考え方は自由・平等・連帯・共生を足し合わせたものであり、その精神は深く教育に浸透しているということです。高齢者や障害のある人たちと連帯・共生することがごく自然であり、そのために高い税金を納めるのは当たり前だと考えられています。1980年代の高齢者医療福祉政策の転換で高齢者の「自己決定」が尊重され、本人の望む、住み慣れた地域での暮らしを支援ネットワークが可能にしていることをはじめ、デンマークの人たちの福祉観や教育についての考え方が紹介されました。

大熊さんは日本とデンマークとの政策の違いを浮き彫りにしたうえで、日本の介護の現状について分かりやすく解説しました。

後半のトークセッションでは、在宅の暮らしを支えている医師として、新田さんが日々の取り組みを報告、これをもとに日本の現状が話し合われました。とくに注目されたのが高齢者の「自己決定権」でした。落合さんは自らの体験を踏まえ、「まわりが苦しまないためにも自分の老いをどうしていくのかという自己決定をちゃんとしておきましょう」と提案しました。落合



さんの母親は、治療の一環としてお腹に穴を開け、胃に直接栄養を送り込む「胃ろう」の手術を受けました。認知症だったため、本人が望んでいたかどうかを確認できぬままの対応でした。落合さんは「今でも気持ちのどこかに『ひっかかり』があります」と、自らの苦い思いを語りました。

参加者からは「デンマークの福祉を知ることができた」「これからは日本でも住み慣れたまちで暮らせる可能性がある。声を上げて、福祉の政策や制度、社会の考え方を変えていくことが大切だ」という声が聞かれました。

高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」(全国9カ所)

当事業団主催

日ごろ外出の機会の少ない、高齢者向けの施設の入居者や利用者らを対象に、一流の音楽家や力士らが訪問し、質の高い楽しいひとときをお届けする「ゆうゆうビジット」。2年目となった10年度は、全国の特別養護老人ホームや介護老人保健施設など計9カ所を、5組の出演協力者に訪問していただきました。

10年度の第1回目は7月20日。バイオリニストの千住真理子さんが神奈川県秦野市の特別養護老人ホーム菖蒲荘を訪問＝写真上。入居者54人に温かく話しかけ、「G線上のアリア」や「家路」「ノクターン」など、この日のために自分で選んだ8曲を演奏しました。菖蒲荘の平均年齢は88歳。演奏後にはまもなく101歳になるという女性から花束が贈られました。

バイオリニストの川島成道さんは7月26日に鹿児島市を、翌27日には大分県別府市を訪れ＝写真下、九州では初めての「ゆうゆうビジット」になりました。鹿児島市の養護老人ホーム・救護施設いしき園では、入所者や職員約150人を前に、アイルランドやイングランドの民謡、日本の「さくらさくら」をアレンジした「さくら変奏曲」など、7曲を演奏。曲が終わる



ごとに大きな拍手がわき、演奏に合わせてメロディーを口ずさむ人もいました。別府市の社会福祉法人一燈園では約150人に「グリーンスリーブスによる変奏曲」など民謡を中心に6曲を披露。1770年製のバイオリンを弾いた川畠さんは「このバイオリンは240歳。傷むところは出てくるが、修繕することで味わいのある音が出る」と話し、園の職員は「趣味の方の演奏会はよくあるが、一流の方は珍しく、みんな楽しみにしていました」と話していました。

高砂部屋の力士たちは、7月27日に愛知県犬山市の「ふなびきクリニックほほえみ医療・介護・福祉グループ」の老人保健施設、11月30日に福岡県筑後市の特別養護老人ホーム桜の丘、1月25日に群馬県高崎市特別養護老人ホームシエステさとの花を訪問しました。犬山市への訪問＝写真上＝では、高砂部屋の朝弁慶と朝乃丈の両力士（ともに三段目）とマネージャーの松田哲博さん（元一ノ矢）を、

高齢の入所者や通所者を中心に約200人が迎え、力士が技を披露すると、拍手や歓声が上がりました。相撲甚句が披露され、ちゃんこ料理もふるまわれました。担当職員は「お相撲さんが来るよと話をしたら、日頃は自分から話すことの無い利用者が、積極的に話しかけてくるなど、目の輝きが違ってき



ました。記念撮影で涙する人もいたし、本当に良い思い出になりました」と話していました。

歌手のおおたか静流（しずる）さんと、音楽とマジックで幅広く活動する大友剛さんは、9月16日に大阪府吹田市の特別養護老人ホームみらいを訪問。11月18日には愛知県名古屋市の複合高齢者福祉施設瀬古マザー園を訪れ＝写真下、入所者や利用者ら約100人を前に「ちいさい秋みつけた」や「故郷」など約10曲を熱唱し、高齢者も一緒に口ずさみました。利用者のなかには視覚障害のある人もいるため、大友さんのマジックにはおおたかさんの解説が付きしました。

女優の日色ともゑさんは、ポルトガルギター奏者の湯浅隆さんとマンドリン奏者の吉田剛士さんの2人組「マリオネット」とともに10月6



日、兵庫県姫路市の特別養護老人ホーム泉の杜を訪問しました＝写真。マリオネットのギターとマンドリンの調べに乗って日色さんの詩の朗読が始まると、最初は緊張した様子だった高齢者の表情も和らぎ、曲が終わるたびに手を合わせる人の姿もありました。



10年度の「ゆうゆうビジット」は10カ所の計画でしたが、大相撲春場所が中止になったため、3月29日に予定していた高砂部屋の力士の京都への訪問は中止になりました。10年2月に始まった「ゆうゆうビジット」は、通算で13回を実施。いずれも朝日新聞の地域面で紹介されました。

朝日高齢者福祉セミナー（名古屋）

愛知高齢者福祉研究会、当事業団、朝日新聞社主催

「21世紀の高齢者福祉を考える～介護保険に何を期待するか」をテーマに、「朝日高齢者福祉セミナー」を11月14日、名古屋市中区の朝日ホールで開催しました。今回は会場の工事の都合で、例年より5カ月ほどずれ込んだの実施となりましたが、セミナーへの関心は高く、介護職員や家族、医療・行政関係者、学生ら約150人が参加しました。

介護保険制度が導入されてから10年を経て浮かび上がってきた「介護者モデル」の変容と支援のあり方を取り上げ、さらに実際に家族を介護している人の実体験の報告もありました。

基調講演は、津止正敏・立命館大教授が「男性介護者の立場からみた介護者支援の課題～介護保険10年目の今」のテーマで、男性介護者が100万人を超えている実情を指摘したうえで、サポートの必要性を説きました。

シンポジウムは「地域で安心して暮らせる介護サポートについて」がテーマ。定年を前に会社を辞めて故郷に帰り、母親の介護をする男性も含めた4人が、それぞれの思いと求められる支援などについて語り、さらに専門家の指摘や提言も交えて熱心に話し合いました。

パネリスト 磯部由美子さん（名古屋市港区在住）

田中 雅子さん（日本介護福祉士会名誉会長）

大矢 日信さん（グループホームたけのこ代表）

瀬古 悦生さん（三重県在住）

座長 渡辺 哲雄さん（日本福祉大中央福祉専門学校専任教員）

福祉教育・福祉啓発推進

第2回環境福祉シンポジウム「踊り場の社会 問われる福祉」（東京）

当事業団、朝日新聞社主催。環境福祉学会、大同生命厚生事業団、テレビ朝日福祉文化事業団後援

環境福祉シンポジウム「踊り場の社会 問われる福祉」を9月28日、東京・築地の浜離宮朝日ホールで開き、約100人が参加しました。

環境と福祉の分野が手をつなぐことで、福祉向上、環境改善、雇用の創造など、新たな展開が開けるのではないかと。このシンポジウムは「福祉に環境の視点を」と、07年12月5日に東京・有楽町朝日ホールで初めて開催。この時は「環境と福祉から環境福祉へ」をテーマにしました。

3年ぶりの開催となった今回は、格差の固定、若者の失業、少子高齢化、貧困社会など、壁に突き当たっている日本の社会状況を分析、経済と環境福祉の連携を視野に、これからのあるべき社会福祉の姿を考えました。宇沢弘文・東京大名誉教授（日本学士院会員）の特別講演「社会的共通資本としての社会保障制度」に続いて、広井良典・千葉大教授が『『創造的福祉社会』の可能性』、小沢修司・京都府立大教授（第9回大佛次郎論壇賞受賞者）が「20世紀から21世紀へ ベーシック・インカムのある社会へ向けて」と題して基調報告。炭谷茂・環境福祉学会副会長（済生会理事長、元環境事務次官）をコーディネーターとするパネルディスカッションも行われ、地球環境にやさしく、持続可能な福祉社会のあり方を探りました。進行はテレビ朝日アナウンサー・石井希和さんに担当していただきました。参加費は1000円。



第6回自殺防止事業「自殺!? ちょっと待って!」—思いとどまってもらうために—（福岡）

福岡いのちの電話、当事業団主催。朝日新聞社、九州朝日放送、福岡県、福岡市後援
大同生命厚生事業団、グリーンコープ生協ふくおか協賛

2009年の自殺者は、警察庁の発表によると、3万2845人（前年比596人増）で、1998年から12年連続で3万人を超える深刻な事態です。年代別では50代が最多の6491人で、40～60代が全体の54%を占めています。一方、若年層も憂慮すべき状況です。人口10万人あたりの自殺者数を示す自殺率は、30代が26.2人、20代は24.1人と過去最悪を更新しました。原因別（重複あり）では、うつ病の6949人など「健康問題」が最多で、

「経済・生活問題」が続きます。失業が絡むケースが1070人で前年から65%増加、特に30代は前年比で88%も増えました。仕事や暮らしに絡んだ原因の増加が目立ちます。

死を考えて、孤立している人たちが、自らの命を犠牲にせずに住むために、今、私たちにできることは何なのかを考える講演会を、前年に引き続き、10月9日に福岡市博多区の福岡明治安田生命ホールで開催。医療従事者や自殺で家族を失った遺族ら約250人が参加しました。

第1部は慶応義塾大学教授の大野裕さんが「うつとの上手なつきあい方」と題して講演。症状や対応方法をQ&A形式を交えて説明し、上手に対処するために「思考チェンジ法」の利用や「ストレスをためない生活」を勧め、特に「深読み」や「自己批判」といった、ストレスを受けやすい思考からの転換を強調しました。第2部のパネルディスカッション「自殺防止ー今できること」は、九州大学病院院長の久保千春さんをコーディネーターに、大野さん、林幹男・福岡いのちの電話理事長、井上久美子・リメンバー福岡代表の3人がパネリストを務め、医療機関で患者が臨床心理士に話を聞いてもらう際の保険適用を求める意見や、人づきあいが苦手な人でもインターネットなどの手段を使って地域で交流できる選択肢が大事だといった意見が出されました。

東海グループホームスタッフ研修会（名古屋）

東海グループホームスタッフ研修会主催。当事業団後援

東海3県のグループホームの障害種別を超えたネットワークづくりを目指した研修活動に取り組みました。12月4日に名古屋市朝日ホールで開催された研修会には、約50人が参加。「制度の行方と現場（ホーム）の支援」をテーマに、NPO法人おおさか地域生活支援ネットワーク理事長の北野誠一さんらが講演やディスカッションをしました。

11年2月5日には勉強会「世話人110番『聴くってなあに？』」を朝日新聞名古屋本社201会議室で開催。約30人が大阪府立大学准教授の三田優子さんの話を聞き、質疑が繰り広げられました。

遺贈・遺言セミナー「おいじたく～あなたの財産を未来に」（東京、大阪、福岡）

当事業団主催

大切な財産を世の中のために役立てたいという希望に応える「遺贈・遺言セミナー」を東京、大阪、福岡の3会場で開催、合わせて約70人が参加しました。東京は今回が3回目。

10月15日に大阪市西区のYMCA会館、11月19日には朝日新聞東京本社＝写真次ページ上＝で、ともに弁護士の中山二基子さんを講師に迎え、相続や遺言、成年後見制度などについて学びました。自分自身の死後にトラブルを起こさず、安心して遺志を実現するために、遺言の作成が有効なことや、元気で判断力のあるうちに成年後見制度について考える必要性などが、豊富な具体例をあげて紹介されました。質疑応答の時間もあり、「とても分かりやすかった」と好評

でした。

11月12日には福岡市の福岡朝日ビル会議室で「相続と遺言を通して、社会貢献を考える」をサブテーマに開催＝写真下、九州や山口県から19人が参加しました。講師の岩城和代弁護士（福岡県弁護士会）に、法定相続や遺言の種類と方法、遺言執行者の必要性などの説明のほか、自ら担当した事例や、遺言書を書くときの留意点、相続税の話もしていただきました。参加者から寄せられた質問票に岩城弁護士は丁寧に答え、予定した時間を大幅に超えました。終了後のアンケートには、次回開催の要望もありました。



小冊子「遺贈」を作成 小冊子『「遺贈」 遺産の寄付をお考えのみなさまへ』（A5判、20ページ、写真）を作りました。前年のセミナーで使った資料をもとに、遺贈の仕組みや遺言書がない場合のデメリットなどをわかりやすくまとめました。セミナーの参加者に配布するとともに、ご希望の方に無料でお送りしています。





第62回保健文化賞（東京）

第一生命保険株式会社主催。厚生労働省、当事業団など後援

保健衛生の向上や、向上に寄与した研究・発見をした団体、個人に贈られる第62回「保健文化賞」の贈呈式が10月26日、東京都港区のホテルで行われ、10団体と個人5人に賞金（団体各200万円、個人各100万円）と朝日新聞厚生文化事業団賞などが贈られました。

この賞は1949年に制定されて以来、この分野の民間の表彰事業として最も定評のあるものです。受賞団体・個人は次の通りです。（敬称略）

【団体】北海道食生活改善推進員団体連絡協議会、フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN（東京都）、川崎病の子供をもつ親の会（神奈川県）、静岡県小山町、愛知県東浦町、AGUDAA—V—フィリピン（愛知県）、三重県アルコール関連疾患研究会、大阪府社会福祉協議会老人施設部会、安来能義地域糖尿病管理協議会（島根県）、高知県精神保健福祉協会

【個人】和洋女子大学長・坂本元子（東京都）、元福井県立大看護福祉学部准教授・西川京子、佐久総合病院統括院長・夏川周介（長野県）、鳥取県立中央病院長・武田倬（あきら）、まほろば福祉会理事長・山下ヤス子（宮崎県）

アサヒベビー相談室（大阪、高槻、大津）

当事業団主催

アサヒベビー相談室は育児に悩む親のための数少ない民間の育児相談室で、病気や栄養相談、発達障害などについて専門家が相談を受けています。

1957年に開設した近鉄百貨店阿倍野店は、大阪市立大学医学部附属病院の小児科医をはじめ、歯科医師や栄養士が相談に乗っています。4月と10月には保育の専門家によるパネルシアターや絵本の読み聞かせ、離乳食講習会、新米パパを対象にしたパパ塾など、親子で参加できるイベントも開催しました。

西武百貨店高槻店（74年開設）は毎週木曜日、小児科医が交代で相談にあたり、西武百貨店大津店（2004年開設）は第1・3日曜日に専門相談員が子育ての先輩の立場からアドバイスしています。いずれも、安心して相談できると好評です。

各相談室の利用者数は次の通りです。

- ・近鉄阿倍野店 613人（1回平均7人）、ミニ講演会 188人
- ・西武高槻店 357人（1回平均7人）
- ・西武大津店 47人（1回平均2人）

生活習慣病市民公開講座（北九州）

平成紫川会主催。北九州市、当事業団共催

財団法人平成紫川会は、公益法人として急性期疾患の治療を中心とした高度医療を提供し、同時に地域医療の確保と質の向上を図るため公衆衛生活動を実施しています。当事業団は、昨年引き続き、平成紫川会、北九州市とともに、地域住民の福祉の向上に寄与することを目的に、最新の医療技術や健康情報を提供する「生活習慣病市民公開講座」を開催しました。

第1回は、5月の「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」でスタートし、11年2月の「狭心症と心筋梗塞の最新治療」まで5回の講座を開きました。また、今回は3月に行われた市民講座「おくすりと上手につきあう方法」も共催しました。最新の医療情報が無料で聴けると好評で、計6回の講座に延べ1340人の市民が参加しました。

【リバートーク市民公開講座】

5月22日 「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」
小倉記念病院 中島 研・救急部長 （アジア太平洋インポートマート）

9月11日 「あなたの血管は大丈夫ですか？（心筋梗塞の注意信号）」
同病院 横井宏佳・循環器科医師（北九州芸術劇場中劇場）

10月30日 「大切な人が突然倒れた時、あなたは何かができますか？」
同病院 中島 研・救急部長 （アジア太平洋インポートマート）

11月20日 「脳卒中の最新治療」
同病院 中原一郎・脳神経外科部長 （北九州国際会議場）

2011年

2月 5日 「狭心症と心筋梗塞の最新治療」
同病院 延吉正清・院長 （北九州国際会議場）

【市民講座】

3月12日 「おくすりと上手につきあう方法」
同病院 増田和久・薬剤部長 （アジア太平洋インポートマート）

チャリティー事業

朝日チャリティー美術展（名古屋、大阪、東京）

当事業団、朝日新聞社主催

全国の美術家や各界著名人から寄贈された作品を販売し、収益を社会福祉事業に充てる「朝日チャリティー美術展」を名古屋、大阪、東京の3会場で開催しました。今年度も文化勲章受章者や人間国宝を含む画家、工芸・彫塑家、書家、宗教家、茶道家、各界の著名人ら延べ約2400人の方々にご協力をいただき、寄贈された作品は日本画、洋画、工芸、彫塑、書、色紙など約3000点にのぼりました。

●名古屋展

第57回名古屋展は12月9日から11日まで名古屋市中区の丸栄百貨店で開催、約1000点を入札と即売で販売しました＝写真。

長年親しまれてきた商業ビル催事場から道路を挟んだ丸栄本店に会場を移し、展示スペースをやや減らしての開催となりましたが、毎回楽しみにされている愛好者の期待は変わることなく、開場とともに即売の展示コーナーには

人波ができました。また昨年度、作品数50点で始めた入札方式での販売は、作品数を約90点に増やしました。入札、即売ともにじっくり作品を見て回り、品定めをして楽しむ美術ファンで会場はにぎわいました。



●大阪展

84回目を迎えた大阪展は12月23日から25日まで大阪市中央区のなんば高島屋で開催しました＝写真。約900人の作家から約1200点の寄贈をいただき、入札と即売で販売しました。客層をさらに広げようと、特別コーナー「イラストレーター・絵本作家・漫画家」を入札会場に初めて設け、59人の作家から81点の寄贈を受けました。会場には、お気に入りの絵画



に見入る若い世代や親子連れの微笑ましい姿も見られました。3日間を通して約5400人と昨年よりも来場者数は増え、不景気にもかかわらず昨年を上回る売り上げがありました。

●東京展

86回目の東京展は2011年3月4日から7日まで東京都中央区の松屋銀座で開催し、入札と即売で約1500点を販売しました。今年度から新しくご協力をいただいた方々の作品も加わり、社会福祉への共感の輪がさらに広がっています。

Next Art展も また、新しい取り組みとして、次世代のアートを担う若手作家を支援する「Next

Art展」を同時開催しました＝写真。若手作家と社会との「懸け橋」を目指す試みで、応募作約340点の中から、選考を経て推薦作品に決定した31点を展示、入札販売しました。4日間で約160の入札があり、会場では作家と来場者の交流もみられました。

（作品を出展していただいた方々のお名前は54～65ページに掲載しました）



第60回メサイア演奏会（東京）

当事業団、朝日新聞社主催。東京藝術大学音楽学部協力



1951年から歌い継がれてきた「藝大メサイア」を12月24日、東京・上野の東京文化会館大ホールで開きました＝写真。小泉ひろしさんの指揮による、藝大フィルハーモニアと学生ら約200人による「メサイア」の全曲演奏は、2300人の来場者を魅了しました。不況の影響

からクラシックコンサートはチケットがなかなか売れないと言われていますが、「藝大メサイア」のチケットは前年に続いて完売となりました。

一流プロへの登竜門とも言われる「藝大メサイア」のソリストは、毎年9月に行われる学内オーディションにより選考されます。今回、ソリストに選ばれたのは、村元彩夏さん（ソプラノ）、松井彩乃さん（アルト）、浜松孝行さん（テノール）、杉浦隆大さん（バス）の4人。来場者の中には、金の卵たちの成長を楽しみにしているファンが多く、「年末は藝大メサイアで締めくくります」という50年来のファンも見受けられます。

ヘンデル作曲の「メサイア」は、キリストの生涯と復活、栄光を題材にしたオラトリオ（聖譚曲）で、「社会福祉の目的以外に演奏を認めない」というヘンデルの意思をくみ、現在も世界中の多くのチャリティーコンサートで演奏されている多い曲です。

半世紀以上にわたり、藝大メサイアを継続することができたのは、社会貢献の一環としてご協力、出演していただいている東京藝術大学音楽学部の教員、学生のみなさんの力によるものです。1997年からは音楽学部だけでなく、美術学部の先生方のご協力も得て、ポスターやプログラムを制作しています。今年はデザイン科教授で美術学部長の池田政治さんのご協力をいただきました。

親子で楽しむクリスマスコンサート（東京）

当事業団主催

毎年恒例の「親子で楽しむクリスマスコンサート」を12月23日、東京千代田区の有楽町朝日ホールで開催しました＝写真。午後1時と午後5時からの2回の上演で、家族連れら約900人がクリスマスのひと時を楽しみました。

今年のコンサートは、中川ひろたかさん（シンガー・ソングライター）が、大友剛さん（ミュージシャン、マジシャン）と野々歩さん（ミュージシャン）と結成した、歌って演奏できるマルチトリオ「ON'S」と、サクソフーン奏者の岡淳さんの4人が出演。小学校の音楽の教科書にも採用された「世界中の子どもたちが」によるオープニングに続き、「ON'S」のファーストアルバム「輪になって」や、野々歩さんのCMソング、クリスマスソングなど15曲を披露しました。演奏曲目の中にはジャズもあり、大人の雰囲気が漂う時間がある一方で、中川さんが自作の絵本を朗読するコーナーや、大友さんがマジックを披露する場面もあり、大人も子どもも楽しめるコンサートになりました。



第52回各派合同三曲演奏会（大阪）

当事業団主催



各派合同三曲演奏会を11月23日、大阪市中央区のNHK大阪ホールで開催しました＝写真。箏、三絃、尺八の第一線で活躍中の各派の協力があり、当日は19社中、約600人が出演しました。出演社中と曲目は次の通りです（敬称略、出演順）。

須山知行・中島警子社中「奈良の四季」▽菊塚春秋会「新雪月花」▽都山流尺八楽会大阪府支部「平和の山河」▽遊琴会「色種変容」▽月清古曲保存会「彩雨」▽菊井箏楽社「夕やけ小やけ合奏曲」▽酒井典彦社中「尺八と箏のための協奏曲第三番」▽雅声会「松籟譜」▽博簡民恵社中「秋の宵」▽箏曲和光会・琴古流玉川社「星」▽大阪正絃社「流星」▽新都山流大阪府支部「初霜」▽八千代会「春の海・21」▽箏曲栄琴会「新高砂」▽中扇喜琇鳳社中「千鳥の曲」▽菊武潔社中「冬の曲」▽菊田歌雄社中「秋の風土記」▽菊扇弘子と琴栄会「せせらぎの賦」▽中村双葉社中「北国雪賦」

第58回洋舞合同祭（尼崎）

当事業団主催

朝日新聞チャリティー「洋舞合同祭」を12月25日から27日まで、兵庫県尼崎市のアルカイックホールで開催しました＝写真次ページ。この合同祭は、戦後間もない1946年（昭和21年）に歳末助け合いを目的に「関西舞踊家集団公演」として始まりました。

今回は小雪の中、関西洋舞界を代表する15団体（出演者総数858名）の協力により、華麗な舞いが繰り広げられました。モダンダンスやクラシックバレエのさまざまなプログラムに観客からも惜しめない拍手が送られました。出演団体は次の通りです（出演順）。

【25日】（児童の部）法村友井バレエ学校、江川バレエスクール、貝谷バレエ団関西研究所、大阪バレエアカデミー（大人の部）法村友井ジュニアバレエ団、江川バレエスクール、大阪バレエカンパニー

【26日】（児童の部）宝塚コードモアテネ、波多野澄子バレエ研究所、江口乙矢・須美子・満典舞

踊研究所、田村弘子バレエ研究所（大人の部）波多野澄子バレエ研究所、スズキ・バレエアート・スタジオ、MR B松田敏子リラクゼーションバレエ

【27日】（児童の部）岡本バレエスクール、西野バレエ団北村眞子バレエスタジオ、井上あや子バレエ教室（大人の部）本田道子バレエ団、バレエスタジオPRELUDE



協賛能（大阪）

能楽協会大阪支部、当事業団主催

協賛能を12月23日、大阪市中中央区の大槻能楽堂で開催しました。関西で活躍する観世、宝生、金剛、金春の四流と狂言の大蔵流、和泉流が出演。歳末恒例の能舞台で、今回は能「経正」「胡蝶」「藤戸」に加え、狂言「歌争い」「土筆」が演じられました。午前と午後の2回、いずれも能楽堂の前には開演待ちの列ができ、関心の高さをうかがわせました。後日、収益金55万4707円の寄付を受けました。

第57回各流合同茶会（大阪）

当事業団主催

茶道3千家の宗匠をはじめ各流の宗匠の協力で行われる「各流合同茶会」を大阪美術倶楽部（大阪市中中央区今橋）で3月26日、27日に開催しました＝写真。関西一円から、2日間にわたり延べ5千人の来場者があり、自流はもとより他流の席で作法やお茶を堪能しました。会場に急きょ設けられた東日本大震災救援募金箱には6万9980円の善意が寄せられました。



以下は懸釜担当の宗匠。〔 〕内は流派。(敬称略・順不同)

【26日】〔表千家〕＝生形貴重〔裏千家〕＝矢野宗菁〔武者小路千家〕＝三宅守真
〔藪内流〕＝随竹会〔宗徧流〕＝佐々木宗節〔一茶菴流〕＝佃一輝

【27日】〔表千家〕＝表千家同門会大阪支部〔裏千家〕＝中尾宗勢
〔武者小路千家〕＝芳野宗春〔松尾流〕＝上西宗慶〔庸軒流〕＝柿本梅軒
〔松風清社〕＝泉谷亘風

〈協賛宗匠〉〔表千家〕＝木村雅基、森泰輔〔裏千家〕＝杉本宗璋、杉本宗鴻
〔武者小路千家〕＝木津宗詮、佐伯江南斎〔藪内流〕＝藪内流大阪支部五葉会
〔古石州流〕＝本庄扇宗〔遠州流茶道〕＝筍新会〔花月菴流〕＝花月菴流大阪支部
〔習軒流〕＝坂田柏苑

第56回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋）

当事業団主催。名古屋美術倶楽部協賛

歳末朝日チャリティー茶会を地元8流派の家元、社中の協力で、12月12日に名古屋市中区の名古屋美術倶楽部で開催しました＝写真。第一席（残月の間）と第二席（葵の間）の茶室で、各4流派が交代でお手前を披露しました。気軽な雰囲気のおかげに、1枚の茶券で2席分の茶の湯を楽しむことができ、和服姿の女性ら約千人が堪能しました。



＜協力宗匠＞（敬称略）

第一席 〔久田流〕＝加藤久岳 〔遠州流〕＝丸山宗翠 〔宗徧流〕＝寺尾宗康 〔尾州久田流〕＝下村瑞晃

第二席 〔表千家〕＝谷口宗清、柴田紹和、棚橋昭雄 〔裏千家〕＝庄司宗文

〔志野流〕＝蜂谷宗玄、綱島章、福島和志 〔松尾流〕＝松尾宗典、松尾宗般

第48回チャリティー大茶会（北九州）

茶道裏千家淡交会北九州支部主催。当事業団など後援

第48回チャリティー大茶会が9月4日、5日に北九州市小倉北区の小倉井筒屋で開かれました。当日は開会直後から女性客を中心に大勢が訪れ、目の前でたてられたお茶を味わったり、お道具の説明を受けたりして、優雅なひとときを楽しんでいました。主催者の「堅苦しくなく楽しめるので、気軽に来て欲しい」との思いが通じたのか、2日間の来場者は1300人に。後日、茶道裏千家淡交会北九州支部の大森宗智幹事長から収益金60万6843円が寄せられました。

杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会（東京）

財団法人杵勝会主催。当事業団後援

古典長唄演奏家の集まり「杵勝会」（八代目杵屋勝三郎会長）が主宰する演奏会が12月11日、東京都千代田区の有楽町朝日ホールで開かれました。演奏会には前年に八代目を襲名した家元の杵屋勝三郎さんをはじめ、100人を超える会員が出演。「老松」「鞍馬山」「綱館」「常磐の庭」「二人腕久」など14曲を演奏しました。収益は当事業団へ寄付されました。

宇井あきら先生・追悼コンサート（東京）

レ・ザマン・ド・ラ・シャンソン主催。当事業団後援

シャンソン演奏グループ「レ・ザマン・ド・ラ・シャンソン」主催の「宇井あきら先生追悼コンサート」が命日の9月1日、ヤクルトホール（東京都港区東新橋）で開かれました。作曲家でシャンソン歌手の宇井さんから指導を受けた、朝倉まみさんら30人余りの歌手が出演し、1年前に亡くなった宇井さんをしのびました。

宇井さんは生前、菅原洋一さんの歌で日本レコード大賞を受賞した「今日でお別れ」などを作曲、日本シャンソン協会理事を務めました。チャリティー活動にも尽力し、ご自身の構成による当事業団後援の歳末シャンソンコンサートは45回を数えました。宇井さんは09年暮れの46回目のコンサートの3カ月前に88歳で亡くなりました。

彩季会チャリティーバザー（東京）

彩季会主催。当事業団後援

皮革工芸の指導、研究を行っている彩季会（東京都杉並区、八尾緑代表）で11月26日、27日、恒例のチャリティーバザーが開かれました。会場では、会員の手作りの小物やアクセサリ、バッグなどが多数、展示即売され、多くの来場者でにぎわいました。売上の一部が同会から当事業団に寄付されました。

各地のウォーキング大会で募金活動（小金井、東松山）

日本ウォーキング協会、朝日新聞社など主催。当事業団後援

日本ウォーキング協会と朝日新聞社などが主催するウォーキング大会で、当事業団の事業紹介や朝日福祉寄金への募金活動が行われました。集まった会場募金の額は次の通りです。

- ・第15回東京国際スリーデーマーチ（5月1日～3日、東京都小金井市） 1万7017円
- ・第33回日本スリーデーマーチ（11月5日～7日、埼玉県東松山市） 14万5487円

そ の 他 の 事 業

西部朝日福祉助成金（九州、沖縄、山口）

当事業団主催

10年度の「西部朝日福祉助成金」は、地域の福祉向上に取り組んでいる小規模福祉作業所やボランティアグループなどの活動を支援するため、夏季に九州、山口の15団体に492万円を、春季には福岡県内の3団体に45万円を贈りました。毎年、年末・年始に実施している「朝日ふれあい募金」などを財源にしています。

夏季の助成金の申込団体募集は10年2月24日付の本紙朝刊の「お知らせ」でスタートし、4月9日の締め切りまでに93団体から応募がありました。2次にわたる社内選考と各県の社会福祉協議会や朝日新聞西部本社の総・支局の協力で現地調査を実施し、下記の15団体を選び、6月19日付朝刊特集面で、その活動を紹介しました。贈呈式は福岡県分を6月25日に西部本社で、その他は各県庁所在地の朝日新聞総局などで行いました。

- 【山口県】NPO法人障害者支援村みのりえん 福祉作業所みのり園（岩国市）＝ワンタッチ式野外テント▽NPO法人E・G・F（萩市）＝業務用ミキサー▽NPO法人シンフォニーネット（下関市）＝発達障害児保護者のための講演会
- 【福岡県】大牟田朗読の会（大牟田市）＝パソコン5台とインターフェイスなど▽NPO法人市民後見人センターふくおか（福岡市）＝市民後見人養成講座▽福岡LD及び周辺児・者親の会「たけのこ」（春日市）＝親の会創立20周年記念講演会▽NPO法人あじさい作業所（北九州市）＝空き缶潰し機
- 【佐賀県】NPO法人ウイメンズサポートネットワーク（佐賀市）＝啓発パンフレット作成
- 【長崎県】NPO法人フリースクール クレイン・ハーバー（長崎市）＝ラベルプリンター、レジスターなど
- 【熊本県】ボランティア湯北「ほのぼの会」（芦北町）＝プロジェクター、スクリーンなど
- 【大分県】NPO法人ちちんぷいぷい あけぼの（津久見市）＝冷蔵ショーケース▽NPO法人津江の会 デイサービスまごの家（日田市）＝玄関の改修
- 【宮崎県】社会福祉法人宮崎県聴覚障害者協会（宮崎市）＝OHC・プロジェクターなど
- 【鹿児島県】社団法人日本リウマチ友の会鹿児島支部（鹿児島市）＝医療講演会
- 【沖縄県】ゆい作業所（那覇市）＝業務用オーブン

春季は、地域で社会福祉活動を継続的に続けている団体を支援するための助成で、運営費として活用できます。福岡いのちの電話（福岡市）▽北九州いのちの電話（北九州市）▽福岡県交通遺児を支える会北九州総支部（同）の計3団体に贈られ、11年3月15日、朝日新聞西部本社で贈呈式を行いました。

主な後援・協賛・協力事業一覧

日 程	催 事		主 催 者	会 場
本 部 (東 京)				
3/28~8/29	第4回全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ大会	後援	全東京ろう社会人軟式野球連盟	北区新荒川大橋球場ほか
4/13~14	第3回国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」	特別 後援	ゴールデンウェーブ実行委員会、 横浜みなとみらいホール	横浜みなとみらいホール
5/3~5	第39回日本車椅子バスケットボール選手権大会	後援	日本車椅子バスケットボール連盟、 日本障害者スポーツ協会	東京体育館
5/22	日本リウマチ友の会創立50周年記念大会	後援	日本リウマチ友の会	東京・京王プラザホテル
6/2	「若さの栄養学」春の講演会	後援	若さの栄養学協会	きゅりあん（東京・品川区）
6/2~6	第25回全国聴覚障害者写真コンテスト	後援	全日本ろうあ連盟	島根県民会館ほか
6/11	日本聾話学校チャリティー映画会	後援	日本聾話学校	東京・日比谷公会堂
6/12~13	第26回DPⅠ日本会議全国集会 in 愛知	後援	DPⅠ日本会議ほか	名古屋国際会議場
6/13	第1回シンポジウム「柔道事故と脳損傷」	後援	全国柔道事故被害者の会	TKP東京駅日本橋ビジネスセンター
7/9~10、 29~31	第59回関東聾学校陸上競技大会、同バレーボール大会	後援	関東聾学校体育連盟	東京・江戸川区陸上競技場、 神奈川・平塚総合体育館
7/20~25	第25回療育音楽指導者研修会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会ほか	東京・新宿区、小平市ほか
7/24	対談講演「今を生きる子どもたち～その理解と支援」	後援	J-CAPTA	けやきプラザ（千葉・我孫子市）
8/6~9、12~ 15、20~22 ほか	朝日キャンプ	後援	NPO 朝日キャンプ	群馬県片品村武尊牧場 キャンプ場ほか
8/22	かがり火の中の和太鼓コンサートⅢ	後援	OHANAプロジェクト	梁田寺（東京・町田市）
8/22	夏の交通遺児家庭を励ます会	後援	交通遺児等を支援する会	市原そうの国（千葉県）
8/23~25	第61回全日本少年野球大会	後援	厚生労働省、全日本少年野球連盟、 全国児童自立支援施設協議会ほか	シェルコムせんだい（仙台市）
9/3	日本点字図書館・秋のチャリティー映画会	後援	日本点字図書館	なかのZERO（東京）
9/5	第23回全国障がい者将棋大会	後援	同大会実行委員会	北とぴあ（東京・北区）
9/12	シンポジウム「頻発する柔道事故」	後援	全国柔道事故被害者の会	梓水苑（長野県松本市）
9/14	第47回東京都老人クラブ芸能大会	後援	東京都老人クラブ連合会	文京シビックホール
9/18	全国ろう児の集い2010	後援	全国ろう児の集い2010 実行委員会	国立オリンピック記念 青少年総合センター
9/18	第14回電動車椅子サッカー関東大会	後援	関東ブロック電動車椅子サッカー協会	障害者スポーツ文化センター横浜ラポール

日 程	催 事		主 催 者	会 場
9/18	正秋バンドチャリティーコンサート「愛のサウンドフェスティバル」	後援	東京光の家	日野市民会館大ホール
9/18～	映画「アイ・コンタクト もう1つのなでしこジャパン ろう者女子サッカー」上映	後援	「アイ・コンタクト」製作委員会	東京・ポレポレ東中野ほか
9/26～27	第36回みんなの音楽会、認知症高齢者講演会	後援	東京ミュージック・ボランティア協会ほか	浴風会大ホール（東京・杉並区）
9/29～10/1	第37回国際福祉機器展 H. C. R. 2010	協賛	全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会	東京ビッグサイト
9/30	第40回朗読録音奉仕者感謝の集い	後援	鉄道弘済会、日本盲人福祉委員会	東京・弘済会館
10/6～7	第3回全国精神保健福祉家族大会～みんなネット岩手大会	後援	全国精神保健福祉会連合会、岩手県精神障害者家族会連合会	盛岡市民文化ホールほか
10/9～11	第35回全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援	全日本ろう社会人軟式野球連盟	さいたま市営大宮球場ほか
10/29～11/1	2010年アジア太平洋盲人福祉会議	後援	世界盲人連合アジア太平洋地域協議会、日本盲人福祉委員会	ホテルグリーンタワー千葉ほか
10/30	第42回愛隣会チャリティバザー	後援	愛隣会	愛隣会（東京・目黒区）
10/31	第3回デフラグビーフェスティバル	後援	日本聴覚障害者ラグビー連盟	東京都辰巳の森海浜公園ラグビー練習場
10/31	交通遺児等を支援する会 第7回チャリティーバザー	後援	交通遺児等を支援する会	エステック情報ビル前広場（東京・西新宿）
11/1～3	サイトワールド2010	後援	日本盲人福祉委員会	東京・すみだ産業会館
11/5	平成22年度全国社会福祉大会	協賛	厚生労働省、全国社会福祉協議会ほか	東京・日比谷公会堂
11/9	第31回全国歯科保健大会	後援	厚生労働省、日本歯科医師会ほか	山形テルサ
11/13	第7回本間一夫文化賞	後援	日本点字図書館	ビッグボックス（東京・高田馬場）
11/14	第57回東京都聴覚障害者大会	後援	東京都聴覚障害者連盟	足立区・ギャラクシティ
11/17～21	第13回土と色ーひびきあう世界ー世田谷展	後援	世田谷美術館、同展実行委員会	東京・世田谷区立世田谷美術館
11/23	第8回本間一夫記念・日本点字図書館チャリティコンサート	後援	日本点字図書館	津田ホール（東京・渋谷区）
11/26～27	彩季会チャリティーバザー	後援	彩季会皮革工芸研究所	彩季会皮革工芸研究所（東京・杉並区）
11/26～2011/5/17	第2回だれもが使えるウェブ・コンクール&シンポジウム	後援	ハーモニー・アイ、同コンクール実行委員会	東京・渋谷
11/30	第22回国民の健康会議	協賛	全国公私病院連盟	ヤクルトホール（東京・港区）
12/2～8	夢編み倶楽部新作展示会	後援	夢編み倶楽部	東急百貨店東横店
12/6～10	弘済学園 わたしたちが創る展	後援	鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会	JR東京駅丸の内北口地下動輪の広場
12/10～12	第10回全国障害者芸術・文化祭とくしま大会	後援	厚生労働省、徳島県、徳島市	アスティとくしま

日 程	催 事		主 催 者	会 場
12/17~25	自立援助ホーム「憩いの家」資金バザー	後援	青少年と共に歩む会	日本橋高島屋
12/21	第59回東京都社会福祉大会	協賛	東京都、都社会福祉協議会ほか	東京都庁大会議場
2011/1/30	New Year チャリティーコンサート 2011	後援	世田谷サービス公社	東京・世田谷区民会館
3/3、6ほか	第56回「耳の日」記念行事	後援	日本耳鼻咽喉科学会	有楽町朝日スクエアほか
3/5	第40回耳の日記念文化祭	後援	東京都聴覚障害者連盟	東京都障害者福祉会館ほか
3/5	メンタルヘルスの集い(第25回日本精神保健会議)	後援	日本精神衛生会	有楽町朝日ホール
大 阪 事 務 所				
4月~ 12年3月	第46期電話相談ボランティア養成講座	後援	関西いのちの電話	博愛社(大阪市淀川区)
4/3~10/24	第20回自然観察インストラクター養成講座	後援	大阪自然環境保全協会	服部緑地ほか
4月・11月・2月・9月	家庭看護実習教室	後援	大同生命厚生事業団	大同生命大阪本社ほか
4月~	地域保健福祉研究 サラリーマンボランティア活動	後援	大同生命厚生事業団	
4月~	2010年度アサヒキャンプ事業	後援	特定非営利法人アサヒキャンプ事業	関西周辺の野外活動施設
4/15~17	総合福祉展「バリアフリー2010」	後援	大阪府社会福祉協議会ほか	インテックス大阪
4/24	これからの自閉症支援のために「ペアレンツトーク集 世代を超えて」	後援	NPO法人 BON	ラポールひらかた
4/25~ 10/24	第28回日本ライトハウスチャリティコンサート	後援	日本ライトハウス	ザ・シンフォニーホール(大阪市北区)
5月~	ソーシャルワーカー養成講座	後援	京都国際社会福祉協会	京都国際社会福祉センター
5/28	「若さの栄養学」春の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
5/30	第17回共生・共走リレーマラソン	後援	同リレーマラソン実行委員会	鶴見緑地
5/29~30	第5回堺国際ツデーマーチ	後援	堺市、日本ウォーキング協会、朝日新聞社ほか	堺市大仙公園
6/10~ 10/30	浜村淳&桜井一枝・チャリティライブ	後援	病气や事故などによる中途障害者を支援する・らしんばん友の会	豊中市民会館大ホール
6/19	第9回大阪精神障害者連絡大会	後援	大阪精神障害者連絡会	弁天町生涯学習センター
6/25~26	脳外傷友の会「第10回全国大会 2010 in ナラ」	後援	同大会実行委員会、日本脳外傷友の会	奈良県文化会館国際ホール
6/26	自閉症支援のための公開講座「遊びの広場とママ・パパミーティング」	後援	NPO法人 BON	大阪府立少年自然の家
6/27	第17回マインドエアロビクス	後援	マインドエアロビクス実行委員会	大阪市長居障害者スポーツセンター

日 程	催 事		主 催 者	会 場
7/1～8/31	2010体験COMVOO夏のボランティア活動	後援	大阪市社会福祉協議会、大阪市	大阪市内ほか
7/3	「共に生きる14」コンサート	後援	同コンサート実行委員会	箕面市立メイプル大ホール
7/8～9	第60回近畿児童福祉施設スポーツ大会	後援	奈良県、近畿児童養護施設協議会、同大会実行委員会	奈良市鴻ノ池球場、奈良市緑ヶ丘球場
7/10	福祉の就職総合フェア2010 in Osaka	後援	大阪府、大阪府社会福祉協議会ほか	インテックス大阪2号館
7/19～24	第31回子どもたちの讃歌展	後援	大阪特別支援教育諸学校造形教育研究会ほか	大阪府立現代美術センター
7/19～8/1	2010年度子供の城・障害児教育夏期連続講座	後援	子供の城協会	公文教育会館（大阪市淀川区）
7/24～25	第8回財団法人日本ダウン症協会全国大会 in 大阪	後援	財団法人日本ダウン症協会	ホテル大阪ベイタワー、USJ
7/25	第18回障害者の明日を語り合うつどい	後援	障害者の生活と権利を守る兵庫県民集会実行委員会	あすてっぶKOBE
7/27～28	平成22年度高齢者介護セミナー	後援	大阪府医師会	大阪府医師会看護専門学校
7/31	大阪市福祉就職・進学フェア	後援	同フェア実行委員会	OMMビル（中央区）
8/7	第16回すいた共生・平和のつどい	後援	同つどい実行委員会ほか	北千里パフォーマンス
8/8～13	第27回土と水と緑の学校	後援	社団法人アジア協会	新宮市高田公民館ほか
8/27～29	吃音親子サマーキャンプ	後援	日本吃音臨床研究会	滋賀県立荒神山少年自然の家
9/5	第49回近畿知的障がい者福祉大会	後援	近畿手をつなぐ育成会ほか	大阪市立北区民センター
9/11 9/23～26	自閉症支援者養成 基礎セミナー及び4daystrainingセミナー	後援	自閉症eサービス	宝塚ソリオホール、ハニカム（大阪市）
9/19	第51回大阪知的障がい者福祉大会	後援	大阪手をつなぐ育成会ほか	池田市民会館
10/3	頸髄症を学ぶ会発足5周年記念医療講演&公開相談会	後援	頸髄症を学ぶ会	ハートピア京都
10/24	ファインエリアフェスティバル2010	後援	同実行委員会、大阪府立障がい者交流促進センターほか	大阪府立障がい者交流促進センター
10/24	第38回全大阪ろうあ者文化祭	後援	大阪聴力障害者協会、大阪市聴言障害者協会	大阪市長居障害者スポーツセンター
11/7	第46回肢体不自由児者を支援するチャリティーバザー	後援	大阪市肢体不自由児者父母の会連合会	買物公園（八尾市）
11/9	第11回大阪救護施設合同文化事業	後援	同事業運営委員会	太閤園（大阪市都島区）
11/12	第60回施設従事者激励会	後援	大阪民間社会福祉事業従事者共済会	大阪松竹座
11/14	身体障害者福祉法施行60周年・知的障害者福祉法施行50周年大阪市記念	後援	大阪市、財団法人大阪市身体者団体	阿倍野区民センター
11/8・19	平成22年度医療社会事業従事者講習会	後援	大阪医療ソーシャルワーカー協会	大阪府社会福祉会館

日 程	催 事		主 催 者	会 場
11/19	「若さの栄養学」秋の講演会	後援	若さの栄養学協会	大阪産業創造館
11/20 12/11	統合失調症って知ってますか	後援	NPO法人精神障害と社会を考える啓発の会	大阪市立総合生涯学習センター
11/21	NPO法人こころの子育てインターねっと関西第23回フォーラム	後援	NPO法人こころの子育てインターねっと関西、大阪人間科学大学院ほか	大阪人間科学大学庄屋学舎
11/23	大阪YMCA第16回チャリティーラン2010	後援	大阪 YMCA、ワイズメンズクラブ国際協会西日本区ほか	大阪城公園
11/24	平成22年度大阪府社会福祉大会	後援	大阪府社会福祉協議会	大阪国際交流センター
11/25～ 12/1	第12回チャリティーニット展	後援	ニットファッションSUMIRE	近鉄百貨店上本町店
12/1～4	第17回ノーマライゼーション絵画・創作展	後援	同展実行委員会	大阪市立総合生涯学習センター
12/12	精神障がい者ホームヘルプサービス研修会	後援	精神障害者社会復帰促進協会	阿倍野市民センター
12/13～18	第34回チャリティー画展	後援	日曜画家協会	大阪市北区市中央公会堂
12/25	日本ライトハウス盲導犬育成 40 周年記念フェスタ	後援	日本ライトハウス	大東市立総合文化会館
2011/1/15	第3回シンポジウム「柔道事故の撲滅を願う」	後援	全国柔道事故被害者の会	阿倍野市民学習センター
1/12～18	第28回ふれあいの街チャリティーバザール	後援	大阪府社会福祉協議会成人施設部会・セルプ部会	高島屋堺店
1/22	講演会「認知症の正しい理解とその対応」	後援	大阪認知症研究会	千里ライフサイエンスセンター
1/23	第31回みんなでつくるコンサート	後援	同コンサート実行委員会	西宮市プレラホール
1/27～2/1	第30回障害のある子どもに学ぶ図工展	後援	大阪市小学校教育研究会特別支援教育部、同特別支援教育担任者会	大阪市長居障害者スポーツセンター
2/5・11・20	福祉の就職フェア WINTER in OSAKA	後援	大阪府、全国社会福祉協議会、大阪府社会福祉協議会ほか	大阪市立北区民センターほか2カ所
2/7	第49回衛生教育大阪大会・第53回公衆衛生大阪大会	後援	大阪府ほか	大阪府病院年金会館
2/12	青少年のための「久保田雅人わくわく講演会」	後援	大阪府青少年活動財団他	国際障害者交流センター
2/27	誰もが安心して医療が受けられるように 人に優しい豊かな医療を考える府民のつどい	後援	NPO 大阪難病連、大阪府ほか	エル・おおさか（大阪市中央区）
3/5	素のままフェスタ2011	後援	同フェスタ実行委員会	豊中市立アクア文化ホール
3/9～13	第26回肢体不自由児者の作品展	後援	大阪府肢体不自由者協会ほか	ドーンセンター
3/12	第23回こんにちはまつり	後援	同実行委	神戸市立生田文化会館

日 程	催 事		主 催 者	会 場
西 部 事 務 所				
通年	西日本カラオケ連合協議会のチャリティー発表会（4回）	後援	西日本カラオケ連合	北九州市内の生涯学習センターほか
5/29	第28回北九州精神障害者家族会連合会総会	後援	北九州精神障害者家族会連合会	ウェルとばた
5/30	第48回北九州市障害者スポーツ大会	後援	北九州市障害者スポーツ協会ほか	本城陸上競技場など
6/2～7 6/16～22	第45回記念西部伝統工芸展	協力	日本工芸会ほか	福岡三越 熊本鶴屋百貨店
6/2	デフ・パペットシアターひとみ『稲むらの火』北九州公演	後援	北九州市聴覚障害者協会	北九州市男女共同参画センター・ムーブ大ホール
7/17～20	第31回脳性マヒ児のための母親研修キャンプ	後援	福岡あゆみの会	やすらぎ荘
8/10～12	第55回在宅肢体不自由児海の療育キャンプ	共催	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡県立少年自然の家「玄海の家」
8/28	全日本視覚障害者協議会 女性部 第16回福岡大会	後援	全日本視覚障害者協議会女性部	ホテルクラウンパレス北九州
8/28	第31回九州障害者卓球選手権北九州大会	後援	九州障害者卓球連盟	北九州市総合体育館
10/23	きょうされん第33回全国大会 i nふくおか	後援	きょうされん	福岡国際会議場ほか
11/10～ 12/10	第58回手足の不自由な子どもを育てる運動	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	福岡市など福岡県内主要都市
11/14	第21回全国ふうせんバレーボール大会	後援	日本ふうせんバレーボール協会ほか	北九州市立総合体育館
12/5	第13回北九州市手話フェスティバル	後援	北九州市聴覚障害者協会ほか	北九州芸術劇場大ホール
2011/3/1～ 6	第29回肢体不自由児・者の美術展	後援	福岡県肢体不自由児協会ほか	アクロス福岡コミュニケーションエリア
3/13～8/28	第1回全九州ろう社会人軟式野球大会	後援	全九州ろう社会人軟式野球連盟	福岡・糸島市曲り田公園 野球場
名 古 屋 事 務 所				
4～10月	第62回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール	後援	愛知県共同募金会ほか	愛知県庁本庁舎ほか
4/11	第30回愛知県聴覚障害者体育大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	豊橋市総合体育館ほか
4/29～ 5/23	平成22年度愛知県障害者スポーツ大会	後援	愛知県、県社会福祉協議会	星ヶ丘ボウル（名古屋市）
5/21～23	第13回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2010～	後援	名古屋市国際見本市委員会	ポートメッセなごや
6/12・13	第24回日本車椅子ツインバスケット選手権大会	後援	日本車椅子ツインバスケットボール連盟	パークアリーナ小牧（小牧市）
6/12・13	第19回東海北陸車いす・市民交流集会 IN 愛知	共催	東海北陸車いす・市民交流集会 IN 愛知実行委員会	朝日ホール（名古屋市）ほか
6/12・13	第21回東海聴覚障害者体育大会	後援	東海聴覚障害者連盟	東郷町総合体育館ほか

日 程	催 事		主 催 者	会 場
6/12・13	第21回東海聴覚障害者体育大会	後援	東海聴覚障害者連盟	東郷町総合体育館ほか
7/4	第27回愛知県聴覚障害者大会	後援	愛知県聴覚障害者協会	高浜市民センター・中央公民館
8/7・8	全国障害者問題研究会第44回全国大会愛知大会	後援	全国障害者問題研究会	愛知県体育館ほか
8/12～17	第27回岐阜心理リハビリテーション療育キャンプ	後援	岐阜心理リハビリテーション部会	長良川スポーツプラザ（岐阜市）
8/18～23	第38回愛知心理療育キャンプ	後援	愛知心理療育親の会	愛知県青年の家（岡崎市）
8/18～25	第25回中部ブロック動作法セミナー	後援	三重県心理リハビリテーション連合会	鈴鹿青少年センター
8月	アサヒ合同キャンプ、アサヒ夏休み川のほとりキャンプ	後援	NPO法人アサヒキャンプ名古屋	岐阜県中津川市・乙女警告キャンプ場
9/10～12/10	第58回「手足の不自由な子どもを育てる運動」	後援	愛知県肢体不自由児協会	愛知県青い鳥医療福祉センター
9/26	第34回10愛のフェスティバル	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館ひろば
10/2	生き生き長寿フェア2010「はつらつ健康プラザ」	後援	愛知県社会福祉協議会	あいち健康の森公園（大府市ほか）
10/16	脳外傷リハビリテーション講習会	後援	脳外傷リハビリテーション講習会実行委員会	名古屋市中区役所ホール
10/21	第58回愛知県社会福祉大会	後援	愛知県社会福祉協議会	愛知県体育館
10/31	第55回名古屋市障害者福祉大会	後援	名古屋市身体障害者福祉連合会	名古屋市公会堂大ホール
10月～11年2月	アサヒひだまりキャンプ	後援	NPO法人アサヒキャンプ名古屋	春日井市少年自然の家
11/7	第16回地域療育講演会	後援	社会福祉法人美谷会ほか	岐阜県民文化ホール未来館
11/7	第38回医療講演会	共催	三重県重症心身障害児（者）を守る会	四日市市勤労者・市民交流センター
12/5	第50回愛知県身体障害者福祉大会	後援	県身体障害者福祉団体連合会	田原市渥美文化会館
11年2/11	認知症の人と家族の会愛知県支部「30周年記念講演会」	後援	「認知症の人と家族の会」愛知県支部	愛知県産業労働センター ウィンクあいち（名古屋市）
2/20・26	平成22年度知的障害者支援者養成講座	後援	名古屋手をつなぐ育成会	名古屋手をつなぐ育成会福祉会館ほか
2/26	NPO 法人あいち福祉オンブズマン主催セミナー介護事故模擬裁判劇	後援	NPO 法人あいち福祉オンブズマン	朝日ホール
3/6	第29回耳の日記念聴覚障害者と県民のつどい	後援	愛知県聴覚障害者協会ほか	一宮市民会館
3月	アサヒ春休み川のほとりキャンプ	後援	NPO法人アサヒキャンプ名古屋	春日井市少年自然の家

チャリティー美術展に出展いただいた皆様

(50音順、敬称は略させていただきました)

【日本画】

(あ行)

相嶋崇人	相羽ユキ	赤井春水	赤沢嘉則	赤羽根一司	秋本幸一	浅野忠	足利満雄
小豆島良耳	安達英志郎	阿部一雅	阿部友子	天野耕造	荒井孝	新井陽子	荒木孤人
荒木靖子	有賀明文	安斎義郎	安藤徹	飯田小夜子	池田薙仔	池田夏平	石踊紘一
石崎昭三	石田幸誠	石塚青篁	石永皓一郎	石原正人	伊勢巧	市川保道	市野鷹生
市野晴美	市橋豊美	伊藤紫虹	伊藤獨	伊藤正男	伊東美巳	稲熊万栄	犬飼白龍
井上耐子	井上北斗	猪熊佳子	今井珠泉	今井武久	磐城佳子	岩崎美代子	岩田三枝
岩波昭彦	岩本富雄	岩本峯齊	植田清子	上村淳之	上村典子	鵜飼千佐子	臼井治
内田広己	内田政美	烏頭尾精	梅岡徳子	梅原幸雄	浦上義昭	江口佳寿子	蝦名芳枝
遠藤隆稔	大嶋英子	大竹紫水	太田小晴	大月紅石	大野廣子	大野幹彦	大森運夫
大矢時保	大矢十四彦	大矢紀	大山鎮	岡田郁子	岡田繁憲	岡信孝	小川国亜起
小倉理山	押元一敏	小山硬	折式田生子				

(か行)

檜下稔	春日あけみ	片山宏	加知満	加藤恵	加藤哲男	加藤美恵子	加藤佳子
兼島聖司	鎌田紀子	上岡奈苗	川合和子	河合重政	川北一雄	川越篁治	川崎マリ子
河嶋淳司	川島睦郎	川嶋渉	河津胖子	川辺隆啓	河村沙希	神林久子	菊川三織子
菊池治子	岸野圭作	北原雅眉瑠	木村光宏	金原保則	楠暁子	工藤甲人	久芳道信
久保吉郎	久保嶺爾	倉島重友	倉田立美	倉田富美	倉地千枝子	黒澤正治	小泉淳作
小泉智英	郷倉和子	香西坦子	香野ルミ子	小島和夫	小島光径	後藤順一	後藤紳也
後藤純男	後藤芳世	粉川洛木	小林済	小林裕子	小林六博	小谷津雅美	

(さ行)

齋藤陽	斉藤和	斎藤宗	坂元洋介	佐久間顕一	佐々木経二	佐々木裕而	笹本正明
佐治満澄	佐竹雲遊	佐藤晨	佐藤継雄	佐藤啓美	佐藤叔	里見穎伸	猿橋幸治
沢戸和子	澤山輝彦	重岡良子	品川成明	篠崎美保子	澁澤卿	清水史郎	清水信行
下川辰彦	下川立夏	下島洋貫	霜鳥忍	白井久義	杉谷彩光	杉山博子	杉山律夫
鈴木竹柏	鈴木夏江	鈴木至夫	鈴木美津子	千住博	染谷聡之		

(た行)

田井久江	高木白雲	高木元子	高越甚	高橋新三郎	高畑郁子	瀧沢巨森	田口愛子
武市斉孝	武田州左	多治見早苗	田代邦子	辰巳寛	田中重造	田中瑞芳	田中基美

谷井恵紅	谷口蕙香	田村仁美	千村俊二	月居和子	津田勉	土長けい	土屋雅裕
筒井耀也美	角田範子	樋田洋子	道家珍彦	東条光顯	徳川和美	戸田みどり	殿南直也
富田俊成	鳥垣英子	鳥山武弘					

(な行)

中岡友子	長崎莫人	中島千波	永田耕治	永田実子	中谷温男	中野貴雄	中野嘉之
仲林敏次	中村壽	中村宗弘	那波多目功一	成田環	仁木寿美子	西澤知江子	西村勝廣
西村光人	西山英子	西脇繁華	沼本三郎				

(は行)

長谷川郁子	服部倫子	服部誠子	浜上俊和	濱田昇児	浜田泰介	林孝彦	林田啓江
林芳辰	林正明	林美枝子	原武子	原田巧	稗田一穂	日置宏輔	日景博
日比野光雄	平岩洋彦	平尾秀明	平田春潮	平松礼二	廣岡通正	福王寺一彦	藤井康夫
藤本久美	藤原志保	藤原祐寛	紅山幸水	堀川えい子	堀越保二	本間正英	

(ま行)

前田暉	馬瀬里子	町田泰宣	松生歩	松木秋佳	松崎良太	松下勝正	松下宣廉
松下園江	松永明雄	松室加世子	松本進	松本哲男	松本実	真野尚文	丸尾久子
三浦絵衣子	三上俊樹	三沢英伍	水江東穹	水谷勝子	水野收	三谷青子	満田竹水
三村伸絵	三宅和光	宮崎観峰	宮本脩子	宮本和胡	三輪晃久	村井玉峰	村井葉子
村田晴彦	村田林藏	森島扶美子	森英明				

(や行)

矢澤貞子	安川眞慈	谷中武彦	柳績	山口溪華	山口義明	山下まゆみ	山平貞信
山本恭子	山本しず子	山本真一	山本真也	油野由美子	吉岡三樹子	吉川優	吉田祥子
吉田多最	依田有立	四田淳三					

(わ行)

和田洗珀	和田利造	渡辺章雄	渡邊英子	渡邊幸子	渡辺富栄	渡邊美喜	
------	------	------	------	------	------	------	--

【洋画】

(あ行)

饗庭昌貞	青江健二	青木今陽	秋田谷愛子	阿久津正志	明吉美智子	浅井清貴	浅井欣哉
浅井義弘	安食愼太郎	東弘孝	足立一夫	安達茂人	安達康夫	渥美静子	阿部信行
阿部晴美	安部英夫	天津恵	天野吉則	荒井孝	新井康須雄 (故人)		有田巧
有田守成	安藤公一	飯田道嗣	家田聖子	家田非左子	五百住乙人	猪飼淳	池田くみ子
池田洋子	恵俊彦	井阪仁	石川幸子	石川世始子	石川ヨシ子	石阪春生	石田聖子
石根三千代	石野紀美子	石野容三	石橋武夫	石原ミチオ	泉地靖雄	泉富美	磯部徹男
板垣千鶴子	板倉美智子	井田繁	伊丹重男	市川光雄	市古肅亮	市村一	井手典子
出村幸代	伊藤郁	伊藤和義	伊藤清和	伊藤順子	伊藤純子	伊藤昭蔵	伊藤隆
伊藤高義	伊藤直	伊藤秀男	伊東博子	伊藤弘之	伊藤万几子	井藤雅博	伊藤康夫

稲垣龍雄	稲田ハル（故人）	井上憲一	井上慎介	井上利哉	猪口公子	井口由多可
今村市久	今村昭寛	今村价男	入江観	岩井美津子	岩切岑泰	岩崎雄造
岩田視司	岩谷康世	岩渕晃三	岩本かずえ	イ・ワヤン・シーラ	上木伸之	植木美代子
上嶋スミコ	上尚司	上田ますみ	植月正紀	上野憲一	上野千代子	上野理男
臼井恵之輔	碓井たか子	薄久保友司	宇田喜久子	宇野亜喜良	宇野孝之	宇野義行
梅村徹	浦川彰子	栄永大治良	江上寿夫	榎本多恵子	江本繪門	江本佳寿子
王前一馬	大石つね子	大江孝	大岡立	大柿了一	大川浩市	大口邦子
大島幸夫	大谷哲生	大津英敏	大附晋	大西生余子	大西弘之	大渕繁樹
大森良三	大山富夫	岡貞徳	岡田俊一	岡田全良	岡千秋	岡宏
岡本尚子	小川清子	小川幸紅	小川周二	雄川ちづ子	沖田幸和	沖田廉平
奥村聰臣	尾崎功	尾崎重春	尾崎ゆき子	長田昇	納健	小澤一正
小沢眞弓	小田島えい子	織田廣喜	織田義郎	越智節昇	乙丸哲延	小野仁良
小原キク	尾松直	面矢元子	折本美祢子			
（か行）						
加古千恵子	笠井誠一	梶浦寿布	梶田達二	春日井正	粕谷良雄	片山昭弘
勝呂隆光	加藤助八	加藤千太郎	加藤トオル	加藤信子	加藤日出男	加藤正明
金井順子	金子貞子	壁下孝	上所幹彦	神谷正海	加覧裕子	河井達海（故人）
川口輝夫	河西昭治	河野宗之蒸	川原比瑳子	川辺忠孝	川雅吉	河村斗世子
木浦寛治	菊池郁子	菊地洋二	喜澤のり子	岸田淳平	岸野昭	木谷利江
北原悌二郎	北見隆	北村美枝	北山茂	北山達哉	橘田政明	木寺淳二
絹谷幸二	木下實之	樹林雅生	木原寿夫	木村信之	木村正志	木村正
木脇康一	日下直樹	草野直己	久世瑠璃	久保田政子	久保輝秋	倉田和夫
倉持正	倉本勝博	栗田政勝	栗牧慶次	黒川彰夫	黒木郁朝	黒木邦彦
黒木宏	黒沢信男	黒田征太郎	黒田秀方	黒田富紀子	黒田勝	黒柳弘行
小池かよ	小泉元生	小泉守邦	甲谷武	河本和子	郡桂子	古賀猛
小阪弘子	五島まさを	小杉小二郎	小瀬垣宏郎	後藤昭夫	小早川協右	小林昭子
小林八重子	小林裕児	小柳晟	小柳幸代	小柳吉次	小山オサム	小山成
（さ行）						
斎藤吾朗	斎藤孝弘	斎藤千川予	斎藤秀夫	斎藤光子	斎藤由比	佐伯浩
坂谷和夫	坂中功一郎	坂本直	坂本よしこ	櫻井孝美	桜井陽彦	佐光亜紀子
佐崎紘一	佐々木貞夫	佐々木友幸	佐々謙二	佐竹稔	佐藤一成	佐藤勝信
佐藤潤	佐藤忠彦	佐藤富美子	佐藤良紀	佐藤義光	佐野千津子	佐野比呂志
猿渡士郎	澤辺茂男	塩川佑子	志賀源吾	四方道夫	七里和子	芝田キク
柴山静穂	芝芳雄	嶋谷卓之	嶋谷美鈴	島田安雄	嶋津俊則	嶋貫佑一
清水鉄彌	清水佳子	下園由莉	下田悌三郎	庄司栄吉	城康夫	白川順子
白鳥三郎	白山扶士子	新宅光男	菅沼正則	菅原洸人	杉浦温子	杉浦充
杉村美文	杉本澄男	杉山重雄	杉山英子	鈴江章郎	鈴木英人	鈴木貞子

鈴木奈緒	鈴木延雄	鈴木福男	鈴木マサハル	鈴木睦美	鷺見康夫	関口貴美	関拓司
勢古宗昭 (故人)		瀬下ゆり子	世利徹郎	園山幹生	祖父江弘幸		
(た行)							
大門正忠	高木政彦	高沢正利	高橋一正	高橋一善	高羽清司	高松政子	多賀谷無人
高山晃	田川知子	滝沢直次	滝滋	瀧田依子	宅田忠正	田口正子	田口貴久
竹内重行	竹内靖夫	竹内雍子	竹生節男	竹下功	竹中稔量	竹原邦樹	竹村和夫
田坂ゆたか	多田すみえ	多田晴義	たちようこ	辰将成	館内美智子	楯岡和子	田所義信
田中敏夫	田中ひとえ	田中良	田辺新吾	谷川泰宏	谷口和正	谷田頼郎	谷本暁雄
谷本ためひろ	田伏勉	玉井久美子	タマカワ千恵	玉木英治	玉谷明美	玉谷優	田村正幸
田屋幸男	知念正文	千原稔	中條健史	塚田清	塚原ヨリ子	塚本英一	塚本吉廣
津川純子	辻司	津田勝利	堤慶	椿野浩二	鶴房健蔵	鶴見雅夫	鶴山好一
出口修	寺井徹	寺沢順子	寺西進三郎	土井邦晃	東方達志	戸狩公久	外川攻
戸高明義	外処旭	富澤尚美	富田利雄				
(な行)							
長井功	永井忠雄	長井宏之	中桐康夫	長澤すみ江	長澤卓重	中島大三	中島千恵
中島裕司	中嶋美瑛子	中田順子	中谷健三	長富博子	中西文彦	中西良招	中根寛
中野治朗	長濱伶子	中村郁夫	中村英	中村一人	中村啓子	中村晃子	中村輝行
中村光幸	中村百合	那須野栄	生井京子	檜崎重視	成瀬光男	難波忍	西井義晃
西嶋俊親	西田藤三郎	西塚芳子	西野一郎	西村壽郎	西山徹	新田ゆき子	抜井亀良
塗師祥一郎	沼尾雅代	根萩斎門	野久保由美子	野田富三郎	ノブサチ	野辺田紀子	野村亜紀子
野村京子	乃村豊和						
(は行)							
萩原和子	萩原栄文	橋本忠夫	長谷岩友	長谷川和子	長谷川仵	長谷川正子	浜口美和
濱田進	濱田弘康	濱哲郎	濱本恵一	早川義孝	早川勝	林敬二	林孝三
林茂樹	林静一	原田たかし	原田嘉徳	半澤満	日賀野兼一	樋口貞男	平井智子
平岩郁郎	平尾倫子	平川富貴子	平沢文一	平野昭子	廣岡清武	広瀬範	広田和典
深川和久	深津静男	福岡幸子	福岡通男	福田兼松	福田陽子	福永紀子	福原満江
福満よさ美	藤井多鶴子	藤井勉	藤崎恒頼	藤村サツ子	藤本正男	藤森悠二	藤原慶子
布施久美子	ブライアン・ウィリアムズ	古野紀征	別府忠雄	帆足ゆり	星功	保科浩一	保科浩一
細川進	細谷久美子	堀江優	堀尾一郎	堀太郎 (故人)	堀博喜	本多しず子	本多しず子
(ま行)							
前川雅幸	前島隆宇	槇利光	牧野美代子	巻山昌宏	正木茂	柁木高	真砂貞二
マサル W	松井茂樹	松井三希央	松浦正博	松浦安弘	松樹路人	松沢茂雄	松田貴美子
松田澄夫	松永罈子	松永知久	松原政祐	松村和紀	松村光秀	松室重親	
マツモトヨ一コ		間中敏子	馬淵鈴美	丸山勝三	三浦勝治	三浦敏和	三浦勉
三木義尚	三塩清巳	水野伊津子	水野一	水野尚	溝淵泰史	源尊磨	三柘明子
宮木薫	三宅四郎	宮崎進	宮下由夫	宮田翁輔	宮平勉	宮本玄雲	宮本裕之

宮山博司	三好準治	向井梅逸	村井成好	村井洋子	村岡顕美	村瀬京平	村田伊佐夫
村山陽	元永定正	百瀬貞子	森勇	森一郎	森茂子	森下ヒロ子	森田眞
森田幸宏	森文男	森本計一	森本有一				
(や行)							
八木時子	安井啓二	安井正子	安居素子	安富信也	安福葉子	柳瀬俊泰	矢野喜久男
矢萩武三志	藪野健	矢部聡	山尾才	山岸用之介	山口剛生	山口隆夫	山口ひろみ
山口美佐子	山崎昭男	山下恒子	山下毅	山下弘喜	山下幸夫	山田正二	山田典男
山田嘉彦	山手正彦	山寺重子	山中馨	山根須磨子	山之内弘	山羽斌士	山本亜稀
やまもと悦子		山本悦子	山本恵美	山本虎雄	山本文彦	横井三郎	横内襄
横山申生	横山了平	吉井爽子	吉岡耕二	吉城弘	吉田清光	吉田淳一	吉田敏男
吉田緑	吉野清	吉松八重樹	吉村美令由	吉本満雄	四本祐司	米田整弘	米満大九郎
(わ行)							
脇幹夫	わたせせいぞう		渡辺明	渡辺一夫	渡辺卓美	渡辺とめ	渡辺正夫
渡邊妙法	渡辺良一	和田行雄	渡紀美子				

31 10版

2010年12月12日 日曜日

温かい心 届ける

23~25日 朝日チャリティー美術展

大阪なんば高島屋 今年も漫画家特設も

「漫画家特設」は、漫画家たちの作品を一堂に集め、漫画の魅力を伝える。今年も、大阪なんば高島屋で、漫画家たちの作品を一堂に集め、漫画の魅力を伝える。今年も、大阪なんば高島屋で、漫画家たちの作品を一堂に集め、漫画の魅力を伝える。

洋画家

本展では、洋画家たちの作品を一堂に集め、洋画の魅力を伝える。今年も、大阪なんば高島屋で、洋画家たちの作品を一堂に集め、洋画の魅力を伝える。

日本画家

本展では、日本画家たちの作品を一堂に集め、日本画の魅力を伝える。今年も、大阪なんば高島屋で、日本画家たちの作品を一堂に集め、日本画の魅力を伝える。

著名人

本展では、著名人たちの作品を一堂に集め、著名人の魅力を伝える。今年も、大阪なんば高島屋で、著名人たちの作品を一堂に集め、著名人の魅力を伝える。

版画家

本展では、版画家たちの作品を一堂に集め、版画の魅力を伝える。今年も、大阪なんば高島屋で、版画家たちの作品を一堂に集め、版画の魅力を伝える。

書家

本展では、書家たちの作品を一堂に集め、書道の魅力を伝える。今年も、大阪なんば高島屋で、書家たちの作品を一堂に集め、書道の魅力を伝える。

【工芸】

(あ行)

相羽鴻一郎	青木九仁博	青木挙	栗生屋東洸	青山鉄郎	赤毛敏男	秋野宏和	浅蔵五十吉
浅原千代治	東正之	与勇輝	安達章	安達雅一	新歓嗣	天野達夫	雨宮弥太郎
荒井さつき	荒川達	荒木広	嵐一夫	有松進	安藤和久	安藤光一	安藤敏彦
安藤則義	安藤日出武	安藤博允	池上栄一	池田珪子	石井視子	石川満	石崎光四郎
石野泰造	石橋裕史	石山静男	伊勢崎淳	伊勢崎創	磯谷晴弘	磯部晃	市川博一
市野悦夫	市野元祥	市野茂良	市野信水	市野哲次	市野年成	市野英一	市野雅彦
市野正大	市野勝	市野元和	糸井康博	伊藤彰	伊藤敦子	伊藤憲一	伊藤美秀
伊藤優	伊東祐一	伊藤良典	伊藤渡	稲垣太津男	稲垣幹夫	稲嶺盛吉	井上浩一
井上萬二	井上康德	井上楊彩	今泉今右衛門		今井紀昭	今井政之	今西方哉
今村博	伊村徳子	井村まゆみ	岩井香楠子	岩瀬健一	岩田健	岩本孝志	上島あい子
上田菊明	上田寿方	上田哲也	鵜飼真知子	後田和孝	宇田川溪山	宇田川玄翁 (故人)	
内堀敏房	内村幹雄	内村由紀	内山政義	浦上光弘	浦林章雄	漆畑登	永楽善五郎
江口勝美	江口康成	大泉讃	大上巧	大河内泰弘	大川正洋	大倉貞義	大倉真汝
大塩玉泉 (二代)		大塩昭山	大塩正義	大嶋久興	大須賀選	大角幸枝	太田和明
太田公典	大谷昌弘	太田貢	大槻昌子	大野晃幹	大野耕太郎	大野昭和斎	大野誠二
大橋聡子	大橋裕	大場匠	大樋勘兵衛	大樋朔芳	大樋長左衛門		大樋年雄
大平和正	大平孝昭	岡澤伸之	岡田崇人	緒方修一	岡田親彦	岡田裕	岡本篤
岡本白水	岡本碧山 (故人)		小川健次郎	小川長楽	小川二楽	荻内善晴	荻原毅久
荻原守彦	奥田浩堂	奥村公規	奥村繁豊	奥山峰石	小倉健	小椋範彦	桶谷洋
尾西楽斉	小畑裕司	尾張裕峯					

(か行)

加賀瑞山	角谷英明	各見壽峯	各見飛出記	加古勝己	鹿児島成恵	鹿島和生	梶原茂正
片岡宏幹	片山雅博	勝尾青龍洞	勝尾龍彦	勝田文博	勝田保子	桂寛	加藤永司
加藤錦雄	加藤清之	加藤錦三	加藤溪山	加藤敬也	加藤孝造	加藤幸兵衛	加藤晃楽
加藤作助	加藤惇	加藤嵩	加藤尊也	加藤忠雄	加藤唐三郎	加藤土史路	加藤土代久
加藤允	加藤正也	加藤美土里	加藤康景	加藤佑	加藤陽児	加藤嘉明	加藤廉平
金森伸郎	可児一広	金子信彦	金子認	金重晃介	金重利右衛門		加納義光
樺澤健治	可部美智子	鎌田幸二	神谷英介	亀井幸一	亀井勝	加守田太郎	川井明子
川井明美	河井喜代子	河合竹彦	河井透	河井敏孝	河上恭一郎	川上力三	川喜田敦
川北浩彦	川北良造	河口純一	川口保規	川崎鳳嶽	川崎靖英	河島伝十郎	河内國平
川手敏雄	河端一海	川端近左	川端文男	川原和夫	川淵直樹	神崎継春	神崎正英
神戸保明	神戸義憲	菊池昭	菊池挙子	菊地弘	岸本久泉	北大路泰嗣	北岡秀雄
北口夢石	北野勝彦	北村堅治	北村英昭	吉向孝造 (九世松月)		吉向孫斎 (八世松月)	
吉向蕃斎 (七世松月)		衣川俊仁	木村芳之助	木村玉舟	木村素静	木村展之	木村宜正
木村雅子	木村充良	木村盛和	木村盛伸	木村盛康	木村好博	喜代志松治	清水六兵衛

吉良博	久野勝生	熊谷保興	栗林一夫	黒岩卓實	黒木国昭	黒田正玄	黒田暢
黒田儀男	黒野丈治	桑原みさ雄	桑山圭洋	元田五山	鯉江廣	小出甚吉	厚東孝明
河野玄容	神山清子	神山直彦	神山易久	小嶋太郎	小島弘	小谷多美子	小峠葛芳
小西陶蔵	小西朋子	小西博雄	小橋川清次	小林一雄	小林一富美	小林潤呼	小林東洋
小林浩	小林貢	小林勇超	小林理恵	小松克丸	小南吉彦	小室幸雄	小柳種園
小山貴由	児山由美子	近藤しゅうじ		近藤精宏	近藤潤	今野春雄	
(さ行)							
斎木勲	齋藤修	斉藤則行	斉藤裕子	西念秋生	坂井修	酒井甲夫	阪井舜
酒井田柿右衛門		坂井貂聖	坂井教人	酒井博司	酒井芳樹	榊原勇一	坂田甚内
坂手春美	坂本利夫	坂本俊人	佐久間藤也	笹岡基三	佐々木厚	佐々木省庵	佐々木二郎
佐々木強	佐々木雅浩	佐々木悠紀子		笹山芳人	佐藤和彦	佐藤走波	佐藤苔助
佐藤喬	佐藤巧	佐藤二三子	佐藤泰子	佐藤亮	佐野寛	寒川栖豊	皿谷緋佐子
皿谷実	沢田嘉予子	沢田重雄	沢田豊山	柴岡信義	柴田好明	芝山吉邦	島岡桂
島田敏男	島田緋陶志	島田文雄	島本悠次	清水潮	清水潤	清水醉月	清水千代市
清水俊彦	志村ふくみ	志村洋子	庄村健	白武初芳	白幡明	新庄貞嗣	神農巖
末次観節	杉浦文泰	杉江明美	杉江善次	杉本貞光	鈴木藏	鈴木環	鈴木五郎
鈴木三成	鈴木茂至	鈴木爽司	薄田浩司	鈴木富雄	鈴木美貴子	鈴木量	砂田正博
諏訪蘇山	十河慶子	曾根芳之					
(た行)							
平良敏子	高岡久美子	高権成	高取忍	高橋彰	高橋佐門	高橋春斎	高橋新六
高橋政男	高橋楽斎	高橋和三郎	高原卓史	高見勝代	滝川幸志	滝口和男	瀧口喜兵衛
瀧田項一	武石和春	竹内眞三郎	武腰潤	竹田忠生 (尋牛)		武田敏男	炬口佳枝
武村豊徳	田島明	多田光宏	伊達陽一	田中忍	田中紀子	田中美奈子	田中悠子
田中良昭	田中源彦	谷川菁山	谷川仁	谷口玄	谷口幸二	谷口正典	谷清右エ門
谷野明夫	田沼春二	田原陶兵衛	玉村松月	玉村登陽	田村丈雅	力石俊二	中条照子
塚原三千勝	塚本治彦	塚本満	辻勘之	辻聡彦	辻常陸	土田育弘	土谷道仙
土田友湖	土屋典康	筒井修	筒井辰也	都築青峰	堤圭一	恒岡光興	坪島土平
出口清廣	手塚央	寺井恭	寺池静人	寺田みのる	寺本守	照井一玄	天坊昌彦
徳田明美	徳田八十吉 (四代)		戸津圭之介	豊住和廣	豊場惺也	豊本善隆	
(な行)							
永井素懂	長江哲男	中尾彰秀	中尾英純	中尾恭純	中川進	中里重利	
中里太郎右衛門		中里壽	中島翁助	中嶋喬	中島卓	中島保美	中島悠紀夫
中田一於	中田呂尚	中塚佐一	中根秀介	長野恵之輔	中野陶痴	中野亘	中村眞一
中村清六 (故人)		中村雅明	中村實	中村豊	並木恒延	成良仁	名和章
難波好陽	難波誠治	新野素子	新美吉昭	二貝清一	西浦武	西岡良弘	西尾茂
西尾瑞舟	西川勝	西川實	西田真也	西村源治	西村松逸 (優)		
四代西村徳泉		西村直城	西山宗元	二十歩文雄	根崎隆博	納富晋	野坂和左

野坂康起 野嶋峰男 野田東山 延原勝志

(は行)

萩井一丘	萩井一司	迫二郎	橋爪靖雄	羽柴良一	橋本昇三	蓮善隆	長谷川文陽
長谷川豊	秦蔵六	波多野善蔵	波多野英生	羽田登	波多野正典	花輪滋實	羽石修二
馬場九洲夫	馬場弘吉	羽原一晃	浜田英峰	濱中月村	早川収	早川嘉則	林恭助
林慶六	林寧彦	林亮次	原清	原田拾六	原田隆峰	ピーター・ハーモン	
稗田寿炎	東田茂正	東直人	樋口大桂	樋口雅之	久田邦男	日野田崇	日比野正明
平沢登	平野祐一	廣澤益次郎	広沢葉子	広田優美子	深川巖	福井由美	福岡琢也
福郷徹	福島寛子	福田喜重	福田参平	藤井敬之	藤岡周平	藤田潤	藤塚松星
藤村州二	藤原敬介	藤原均	藤原史暁	藤原楽山	冬柴文廣	古居美智子	古堅幸雄
古瀬堯三 (八代)		古谷徹	帆足まおり	細江稔	細見華岳	堀俊郎	堀野証嗣
堀菱子	本郷大田子						

(ま行)

前田泰昭	前端春斉	前史雄	正宗千春	味舌隆司	眞清水蔵六	増田昌弘	松井康陽
松尾潤	松崎健	松嶋弘	松林正人	松村仁団望	松村拓夫	松本為佐視	松本勝哉
松本佐一	マツモトタカシ		松本達弥	松本政昭	松本正雄	松本良夫	丸田延親
丸田宣政	三浦硯鈴	三木表悦	水野敬子	水野静仙	水野鈺一	水野澤三	水野教雄
水野真澄	溝上藻風	三田村有純	美藤康夫	皆川隆	峯田敏郎	宮川香雲	宮川香齋
宮田豊	宮田亮平	宮地生成	宮地陶博	宮本直樹	美和隆治	椋原佳俊	向山文也
武藤信吾	夢童由里子	村井一郎	村上東市	村瀬寛	村田肇一	室瀬和美	室町勝廣
モーガン・ルイス		百田暁生	森一蔵	森一洋	森勝資	森克徳	森川賢道
森里秀夫	森下育郎	森大雅	森田芳伯	森陶岳	森陶山	森村竹芳	森本英助
森泰司	森脇文直						

(や行)

安田佳代	安田龍彦	安田道雄	矢内齊	矢部篤郎	山内厚可	山内一生	山口堅造
山口重信	山口宏夢	山崎昭	山崎豊	山路和夫	山城建司	山田和俊	山田耕作
山田孝藏	山田進二	山田勢児	山田正博	山田みどり	山田義明	山田義孝	山近剛
山出勝治	大和努	大和保男	大和祐二	大和義昌	山中辰次	山本出	山本修
山本象成	山本眞輔	山本教行	山本秀吉	山本雄一	山本竜一	湯村京子	横山直樹
横山尚人	吉賀将夫	吉川修身	吉川千香子	吉川博治	吉川正道	吉川水城	吉田きみ子
吉田隆	吉田美統	吉田喜彦	吉富文代	好本宗峯	吉本正	米田萬太郎	

(わ行)

若尾経	若尾利貞	若尾誠	若杉集	脇田宗孝	脇本定三	和田桐山	渡辺朝子
渡辺勝竹斎	渡辺聡	渡辺松華 (礼而)		渡辺琢哉	和田一人	渡久兵衛	

【版画】

(あ行)

薨嘔	秋元幸茂	有田暁子	安東菜々	池上壮豊	池間英治	井堂雅夫	井上勝江
浦田周社	大槻玲子	尾崎淳子	尾崎斎晃	小原喜夫	尾山章	園城寺建治	

(か行)

河内成幸	川西祐三郎	木嶋ちさ加	木田安彦	木村秀樹	清田雄司	日下賢二	日下里美
國安珣子	熊谷吾良	黒木良典	古賀章	小崎侃			

(さ行)

サイトウ良	佐久間嘉明	桜井貞夫	佐々木多美枝		塩田みはる	史煌	志野和男
鈴木廣	須田敏夫	世古剛					

(た行)

高柳裕	瀧秀水	田中喜一	田中良平	丹阿弥丹波子		地井紅雲	茶畑和也
辻憲	鶴岡さゆり	富田文雄	富張広司				

(な行)

なかのよういち		中林忠良	西貝和子	乗兼広人			
---------	--	------	------	------	--	--	--

(は行)

馬場重臣	浜本幸男	原三佳恵	平井弘之	広田雅久	藤田慶次	二見彰一	船坂芳助
星野美智子	堀内幸豊	堀江良一					

(ま行)

前田政晴	増田陽一	松田昭八	松本旻	宮田昌則	望月厚介	森岡完介	森島勇
------	------	------	-----	------	------	------	-----

(や行)

安井寿磨子	山本桂右	山本光生	吉田正樹	代情房子	米倉泰民		
-------	------	------	------	------	------	--	--

(わ行)

渡会純价							
------	--	--	--	--	--	--	--

【書】

(あ行)

浅井機山	綾村捷子	新井光風	新屋敷春雷	飯高和子	池田桂鳳	石飛博光	石本法子
泉雪華	稲垣菰圃	江口大象	榎倉香邨	大石三世子	大河内仙嶽	太田義久	岡美知子
小川東洲	尾崎邑鵬	恩地春洋					

(か行)

笠原祥道	檉本桑牛	北村秋香	杭迫柏樹	黒田賢一	黒野清宇	小島寿	五代梨舟
後藤秀園	後藤汀鶯	小伏竹村					

(さ行)

坂本柳波	座馬井邨	紫舟	師村妙石	杉岡華邨	鈴木春朝		
------	------	----	------	------	------	--	--

(た行)

高木聖鶴 田口尹基子 竹中青穂 田中光穂 田中蘆雪 鼓芳石
(な行)
中井史朗 (故人) 中川裕皓 中野南風 中野北溟 中林蒨風 中村秀峰 西迫翠峰
(は行)
半田一真 東山一郎 秀島踏波 藤岡都逕 藤野北辰 甫田鴉川 堀場図南
(ま行)
真神巍堂 増永広春 水嶋山耀 宮崎葵光 村上俄山
(や行)
山中秋邦 横山登士子
(わ行)
渡邊笙鶴

5 3 版 2011年(平成23年)2月23日 水曜日 第36回朝日チャリティ美術展 東京・松屋銀座で3月4日(金)〜7日(月)

第36回朝日チャリティ美術展

心の1500点

宝島の芸術家や著名人から寄贈された作品約1500点を収めた。収益を社会福祉事業に充てる「第36回朝日チャリティ美術展」が、3月4日(金)〜7日(月)まで東京・松屋銀座で開催されます。寄贈者のご厚意により、特別価格での販売(一部入札)です。

作品をご寄贈いただいた芸術家や各界著名人約千人の御礼にお礼を申し上げます。

収益は子どもや高齢者への虐待を防ぐための事業や児童養護施設などで暮らす子どもの進学支援、全国の自閉症療育の関係者が集う「自閉症カンファレンスNIPPON」の開催など、朝日新聞福祉文化事業部の事業に役立てていただきます。作品の購入を通して社会福祉活動の支援をお願いします。

○3月4日(金)〜7日(月)、東京都中央区区松屋銀座8階大ホール。午前10時〜午後8時(5日は午後5時、7日は午後5時まで)
○【期間】4、5日は日本画家、洋画家
○【販売】6、7日は工芸家、書家、著名人など
○入場料無料。入場は7日午後1時まで
○お問い合わせは03・5560・7446。ホームページは<http://www.asahi-welfare.or.jp/>
主催 朝日新聞福祉文化事業部、朝日新聞社

展覧を遅らせるため、4、6日は午前8時30分から松屋銀座正入り口で入場者整理を行います。混み合う時間帯はクレジットカードのご利用が可能です。作品の一部はホームページで見ることが出来ます。

◆氏名は東京展への寄贈者(予定、敬称略)

若手作家と社会の「懸け橋」に

宝島の芸術家や著名人から寄贈された作品約1500点を収めた。収益を社会福祉事業に充てる「第36回朝日チャリティ美術展」が、3月4日(金)〜7日(月)まで東京・松屋銀座で開催されます。寄贈者のご厚意により、特別価格での販売(一部入札)です。

洋画家

藤井勤さんの洋画「安の海」(0号)

日本画家

福王寺一彦さんの日本画「月光」(41.2×29.3寸)

工芸家

永瀬舞五郎さんの「松」(絵茶碗)

著名人

版画家

書家

【著名人】

(あ行)

藍弥生	赤江瀑	秋元きつね	網代智等	有馬頼底	安齋肇	安西水丸	石田隆
市田ひろみ	井筒啓之	稲畑汀子	植田豊弼	上野道善	上村貞郎	江上泰山	榎木孝明
蛸原あきら	エム・ナマエ		王貞治	大野玄妙	奥田みえこ	小沢昭一	

(か行)

加古里子	片岡省念	片山治之	加藤一二三	金子兜太	川津祐介	河村立司	川村みづえ
木内達朗	岸徹心	喜田川昌之	きたざわけんじ		黒井健	児玉清	小林太玄
小林隆彰	小堀光詮	小堀卓巖	小山幸容				

(さ行)

さいとう・たかを		酒井駒子	酒井雄哉	坂田藤十郎	狭川宗玄	佐々木悟郎	佐藤邦雄
澤大道	三遊亭圓歌	ジェームス三木		下村瑞晃	宿輪貴子	笑福亭仁鶴	新川和江
杉良太郎	千玄室	千宗左	千宗室	千宗守			

(た行)

高田明浦	高田良信	高橋真琴	多川俊映	武内祐人	竹宮恵子	田島征三	立本倫子
田中恭一	谷川浩司	ちばてつや	趙治勲	辻和雲	寺田順三	唐仁原教久	

(な行)

内藤貞夫	永井ひろし	永沢まこと	中原誠	中村梅之助	鯉江光二	成瀬國晴	西巻茅子
野々村玄龍							

(は行)

萩尾望都	長谷川大眞	長谷川義史	蜂谷宗玄	羽生善治	はまのゆか	日野西光尊	日比野克彦
弘兼憲史	ヒロ杉山	藤枝リュウジ		藤子不二雄 [Ⓐ]		古川薫	堀内宗心

(ま行)

前田孝道	前田昌道	増田明美	松井秀喜	松岡悠風	松久保秀胤	松長剛山	松本零士
水木しげる	水口理恵子	水谷八重子	村上康成	メグホソキ	森清範	守屋弘斎	

(や行)

やくみつる	八代亜紀	安彦良和	やなせたかし		矢吹申彦	山口哲司	山口はるみ
山口マサル	山下泰裕	やよいとしん		葉祥明	米長邦雄		

(わ行)

若尾真一郎

【Next Art展】

阿部泰介	有賀礼	出口雄樹	今西真也	うじまり	大森みず紀	川嶋陽介	川畑絵
北川太郎	久保智昭	後藤勇治	篠原木綿	白鳥純司	真条彩華	新藤杏子	高橋淳
竹中美幸	田制可奈子	樽井英樹	全民玉	手嶋大輔	中村愛子	根本麻紀子	野川恭平
橋上ゆかり	馬籠伸郎	松川佳代	森下智子	森洋史	横倉裕司	渡邊香月	

心尽くしの1000点

開業を以て9月3日の日曜、名産・栄えり家8開業事務、助成主。入道料。朝日新聞
厚生文化事業部、朝日新聞主催、各報員に協力、重要文化財保存者(人間国宝)を
含む著名作家と、芸術、商業の両方の9月1日入会の方々に、約千名をお集りいただきまし
た(「報告」に詳しい)。この「報告」に詳しい。

収益は、一般への寄付、購買のある子と高齢者福祉に、朝日新聞厚生文化事業部の社
会福祉部に投じます。世間、たいはつは沢山のみなさん(「報告」に詳しい)の方をみます。



高木白雲、高田樗牛、武市 水谷博士、三谷重子、三宅和
清、田中瑞芳、谷口重貴 光、宮崎鐵雄、高木重子、村
仁、石倉登、石川

[illegible]

男、字野義行、江
國立、大精了一、

二、神谷英介、堀井幸一、亀
井勝、加守田太朗、川井明
雄、探島士郎、手塚英、寺井
伊呂久、森宮雄、森下青郎、
森田芳伯、森岡山、森繁司

[illegible]

書家

[illegible]

代傳學子

各界から

風、松茂山、守屋弘高、八幡
殿、やよいとじん、米長

日曜日は午前10時、月曜日は午前11時、火曜日は午前12時、水曜日は午前13時、木曜日は午前14時、金曜日は午前15時、土曜日は午前16時に開催されます。

[illegible]

ご寄付をいただいた皆様

2010年度に全国の皆様から当事業団に寄せられた寄付は、総額3億3817万5174円にのぼりました（東日本大震災救援募金のうち当事業団への指定寄付を含む）。朝日新聞読者をはじめ、企業、団体、グループ、学校など、多くの皆様方に、寄託先として当事業団をお選びいただいております。また、近年は香典返しや遺贈の贈り先に当事業団をご指定いただくことも増えております。

温かい志をお寄せくださった皆様に心よりお礼を申し上げます。ご寄付は、本事業報告で紹介している福祉事業に充てさせていただいております。

ご寄付いただいた皆様は次の通りです（敬称略、順不同）。

※掲載スペースに限りがあるため、匿名希望の方、東日本大震災救援募金指定の方のお名前は省かせていただきました。

- ▼北海道：斧泰彦、桜井智康、春日廣之助、小野弘美、太田洋子、発寒中央病院
- ▼青森県：佐藤實、田中誠治
- ▼岩手県：安井豊、八角病院、飯島仁
- ▼宮城県：朝日新聞仙台中央販売（株）、蚊の涙二世志願者、（株）朝日ライフサービス、野崎茂智子
- ▼秋田県：ASA鷹巣・早口・合川、金田真理子
- ▼山形県：加藤佳子、斎藤万一郎、細谷央子
- ▼福島県：荒井俊子、星熊雄
- ▼茨城県：ASA牛久西部、ASA土浦西口、ASA東土浦、ASA古河西部、JX日鉱日石エネルギー労働組合鹿島支部、寺田篤子、（有）高久、荻原奉祐、寺田達、辻久茂、鈴木芳
- ▼栃木県：ASA宇都宮南部・北部、（有）野田新聞店、手塚正志、石川輝雄、滝童内のり子、中山欣司、福田仁
- ▼群馬県：ASA前橋西部、矢作正夫、鈴木憲一
- ▼埼玉県：ASA小手指、ASA狭山市北部、JX日鉱日石エネルギー労働組合戸田支部、PLUS ONE印刷企画高橋保邦、大原悦子、おばためい八木下梅子、（株）朝日新聞浦和西部、（株）フルカワ、木川陽子、久嶋圭子、村岡美佐男、村山恵二、（有）小曾根新聞舗、（有）堂下新聞舗、渡辺茂樹、浦和学院高等学校・吹奏楽部、遠藤靖夫、加藤誠、河内利雄、河鍋楠美、吉橋市太郎、宮内修、宮本正、金子千侍、熊木貴子、鯨井誠、古谷信雄、三宅シヅ（故人）、高田真輝、国府田七郎、埼玉県立越ヶ谷高等学校生徒会、埼玉西部朝日会第33回日本スリーデーマーチ会場募金、山根克己、小室保尚、小勝竹雄、小林頼重、新井政幸、清水由紀子、西間木久子、西武台高等学校保護者会・後援会、西部病院、斉藤竜太郎、石川全代、相沢照夫、中川正明、猪俣俊晴、田代稔、田林晃、東海林英二、東松山ライオンズクラブ第33回日本スリーデーマーチ会場募金、二階堂好和、伏見泰子、平山春美、名越啓史、野本登

- ▼千葉県：「小さな親切」運動ちばぎん支部、ASA稲毛、ASA浦安北部、ASA行徳南部、ASA検見川東部、ASA千葉NT中央、ASA船橋東部、岩間正雄、(株)アサヒ、神谷とし子、御簾納久子、横田清、海老沢潔、楽天地天然温泉法典の湯、(株)朝日カルチャーセンター千葉、金山達也、古川喜一郎、高木医院、今裕之・久子、根本医院、坂野康郎、山本久二男、柴田眞樹、小川裕、小林佐千雄、小林正登、松戸いずみ幼稚園、松戸いずみ幼稚園父母の会、森下昇、水川毅、石井従道、石原正太郎、石地辰興、浅井邦彦、大屋康夫、大谷昌弘、池田守、津田四郎、辻徹哉、天野高男、田巻勇次、田口泰子、渡辺慎夫、土田芳孝、藤井富一、藤谷玲子、白濱雄三、武藤弘、野村三雄、野村誠二、力武安津子、林常蔵、高貫洋光
- ▼東京都：ASA朝日新聞恋ヶ窪、ASA鶯谷、ASA王子神谷、ASA小台、ASA駒込、ASA白金、ASA深大寺、ASA染地、ASA高島平東部、ASA調布、ASA調布西部、ASA調布北部、ASA八王子南口、ASA原宿、ASA百草園、ASA府中西部、ASA三鷹新川、JX日鉱日石エネルギー労働組合、JX日鉱日石エネルギー労働組合本社支部、アクサ生命保険(株)多摩支社、石橋英太郎、エムエスティ保険サービス(株)、大木和子、大島慶蔵、小沢秀夫、小畑恂子、(株)大野新総研、クロネコファミリーコンサート・神戸会場、小島正治、小林原貴、小山あき子、坂本隆、坂本陽子、澤田肇、サン・マルコ、清水太一、高橋恭、滝澤尚美、種山恵也、寺田眞文、根本正夫、野入納、ハーモニックライフ湯島、浜四津尚文、福井正行、星野富榮、三浦昭彦、水吉安正、矢島陸夫、安田松治郎、山口登、ヤマトホールディングス(株)、山本桂子、吉澤忠一、安室礼三、安達良元、伊澤芳子、医療法人社団櫻美会石川医院、井原邦夫、宇野勝己、宇野昭二、羽立賢二、永田勇、遠藤朝彦、押田佐知子、岡野喜久子、加藤幸雄、河合健、河村良太郎、角田邦明、学校法人上野学園、朝日囲碁クラブ、額田哲郎、(株)西陣、(株)東京鳩居堂、鎌田昭次、吉村幸夫、吉田孝夫、橘ダンススクール、近藤員則、桑田洋太郎、五十嵐篤男、五藤幸子、光岡磨美、弘瀬知江子、江東観光(株)、香川杏二、高岡信男、高橋勤、高橋徹、高橋里江子、佐々木胤郎、佐々木正美、佐々木隆嗣、佐藤一成、佐藤勉、彩季会、斎藤益三、細川福義、(財)杵勝会、山岸律子、山形昭、山住美津子、山脇学園、実践家政科会福祉部、芝崎貞夫、(社)日本コントラクトブリッジ連盟、狩野結衣、勝田明子、将棋名人戦大盤解説会場募金、小さなかけ橋合唱団、小清水英二、小西孝彦、小倉淳平、小島正治、小島靖、小林幸、松井繁、沼沢良樹、上田輝雄、上田和郎、植田八重子、神山悠子、神保勝一、水上篤、水野園、杉浦幸弘、世田谷区民会館NEWYEARチャリティーコンサート会場募金、瀬木邦久、清原富士子、清水五百子、清水歯科医院、清水満、西川昌代、西田卯一、石井フミ、石原剛文、石村孝子・希與子、赤上嘉英、仙頭邦子、専修大学附属高等学校ゴルフ部、川西滋、浅見薫子、浅野明子、前田龍夫、早川鉄夫、蔵方宏昌、村田達夫、大森第二小学校クラス会、大澤金政、第15回東京国際スリーデーマーチ会場募金、谷義郎、谷久光、谷本英次、池辺史生、中村泰明、中村斐子、中村邦彦、中尾英樹、猪忠彦、朝日トップス(株)社員会、朝日新聞社販売局、町田寛子、調枝潮、長谷川きくゑ、長谷川敏郎、長迫節郎、長尾昌治、塚崎定一、塚本美貴子、椿弥一、天津裕、田宮貞和、田村清明、田

中喜久子、田中孝雄、田中章博、田中誠一郎、田中隆久、渡部通英、渡辺伎美、渡辺勝彦、渡辺信子、土居利夫、島井新一郎、嶋倉宏、東京都立第四商業高等学校、湯島針灸院、藤田千尋、日上操、白石みどり、畑中二郎、八木一夫、富村憲一、武井桂子、武田起代彦、福井一彦、福井正行、平山純之、平川恒久、平和映像メディア研究所所長四方繁利、豊田泰大、望月紘一、北山健次、北村満子、本浄寺、本多武、蓑島千恵、夢編み倶楽部、毛利康夫、野口律子、矢谷啓、薮内良宣、鈴木式子、鈴木和子、國枝優、築田長世、アオヤマアイコ、花木秀範、菊田元巳、志賀文哉、池部佳代子、田村一博、渡長茂、白鳥智彦、尾上達郎、平野智一

▼神奈川県：ASA大沼、ASA大船西部、ASA鎌倉深沢、ASA上大岡社員一同、ASA上永谷、ASA港北NT東部、ASA腰越(有)松本新聞販売、ASA鷺沼、ASA鷺沼東部、ASA逗子、ASA鎌倉中央、ASA堀の内、ASA三ツ境南部、ASA向ヶ丘遊園、ASAランド前、ASA寒川社員一同、ASA上大岡社員一同、ASA平塚東部社員一同、K. S. m・m、朝日新聞販売(有)、伊東義雄、小沢妙子、(株)野村新聞店、川辺和夫、小杉弘、佐々木光明、里見哲雄、座間博、湘南新聞販売(株)、ボランティアグループ・プチフル、ミキプルーン剣持グループ有志一同、ミキプルーン剣持正子、(有)ASA平塚旭販売、(有)志村商事、芦村隆生、伊志嶺美津子、磯野喜美子、遠藤義夫、横浜市バドクラブフライデー、岡安昭吾、岡村雅生、岡野功、家本誠一、河野美月・冴月・優月・光貴・星矢、(株)朝日新聞経営研究センター社員一同、(株)エイワ(日刊スポーツ新聞社を通じて)、瓦田信彦、吉田美枝、橋本滋子、君和田正夫、光峰陶遊会、江原利宏、高橋真知子、今津弘、細谷正二・洋子、桜井祐二、三縄みどりチャリティーリサイタル、穴戸信子、手島温子、小沢太郎、松田久美子、新川雅子、神奈川県少林寺武道競技連盟、清水夏江、西野幸英、西脇勝、石原嘉博、石田文太、川島正治、川辺和夫、倉田健志、相州海老名東柏太鼓、代田治彦、大原昭、大堀末雄、大野出穂、池川明、中尾英一、中野重徳、長島チャリティー新年会、田口久雄、田中ゆき子、田中耳鼻咽喉科医院、田辺巖、田邊寿一・真佐子・真祐子、渡辺克己、唐木田卓司、東真人、藤森研、藤木武夫、内山哲哉、飯尾峻大、飛松和子、尾崎昭雄、菱沼保幸、平田キヨ、平林春代、北村幸雄、堀内真人、木村成一、門間泰弘、有可敏男、(有)三和看護婦家政婦紹介所、高口湧太郎・颯太郎、高梨裕二

▼新潟県：(有)岩崎新聞店、野村裕子

▼富山県：位寄正司、角澤泰行、小泉富美朝

▼石川県：向平権三

▼山梨県：浅香昭雄、嶋崎紀代子

▼長野県：(株)ASAs下諏訪東部、宮沢東洋雄、笠原忠夫、犬飼康元、上田腎臓クリニック、多湖校、中尾菊子、藤巻靖享、藤沢魁、洞澤茂、望月正子

▼岐阜県：ASA土岐市、来間佳三、岡田民雄、岩佐清、岐阜市立岐阜商業高等学校、水口和子、川合靖水、中川隆生、米良哲

▼静岡県：ASA浜松南部、(株)三島新聞堂、多々良幸子、(有)清水新聞店、(有)星野新聞堂、稀代幸雄、吉川正宏、吉田三毅夫、佐野勉、(財)静岡県高等学校野球連盟、指出泌尿器

科、小石敏興、松下道雄、菅ヶ谷純弘、川村碩彬、日野昌徳、服部浩

- ▼愛知県：ASA安城、ASA高浜、朝日新聞一宮販売（株）、朝日新聞蒲郡、伊藤邦彦弁護士事務所、おーちゃん・あむいさ・くっちゃんひととせ、蟹江大作、西村光明、星野忠雄、ローソン平針西店従業員一同、安間哲史、安藤政男、伊藤友衛、井之上裕、稲田陽三、加賀見徹、（株）中部朝日広告、亀井正雄、宮内繁、桐明桂一郎、近藤和恵、栗原娑哉、犬塚金代、県立愛知商業高等学校生徒会、原璟、古屋武史、洪淳道、高橋昭彦、高尾高一、佐藤文雄、斎木清治、三水会代表箱林、山中寛紀、山本晴美、市川壽男、柴田琇一、若目田倫子、小川麻子、小野恵夫、森三郎、森本基男、水野志保美、清水勝、青島鍵一、青木茂、川久保福市郎、前田和彦、早川常彦、大軒由敬、大鹿不二男、大石文恵、大房順雄、竹内實昭、中江良子、中村暁、長尾恭宏、鏑木進、天野重夫、田島裕美子、渡辺康人、藤田勝也、内海紀章、内山鶴雄、菱沼幸次、浜田隆、堀尾静、盆栽友人趣味の会、名古屋美術商協同組合、名古屋文理大学短期大学部名栄祭実行委員会バザー収益金、木下喜太郎、木村尚子、野竿源治、野武二郎、両角晃一、苮栄吉
- ▼三重県：ASA津販売、朝日新聞山口新聞販売、河口克元、後建夫、鶴飼眞波、小林清吉、小林朝貴、水谷鎮至、津豊ヶ丘キリスト教会市民クリスマス、徳力倭文子、萩原豊子
- ▼滋賀県：前田実、熊倉一郎、山田靖子、舟橋伸吾、小西眞、植村良雄、辻寅建設（株）、比叡山延暦寺、立木健
- ▼京都府：石井範洋、中谷儀弘、阿部勇、古玉克平、山田健一、小牧貫治、西村完生、石川喜一郎、石川喜美子、浅田照夫、前田裕子、大隈靖彦、瀧本百合子、畑一、伴亘
- ▼大阪府：ASA富田林北、JX日鉱日石エネルギー労働組合関西支部、M・Y、S・M、T・E、Y・W、あさ（株）、朝日新聞河南販売（株）、朝日新聞堺北販売（株）、あさひゆめほととチャリティーゴルフ、（社）大阪府中部朝日会、ウエスティンホテル大阪、大塩竹志、グレース幼稚園、新谷洋二、中島正典、ボーイスカウト堺12団、堀昭一、マリン・マロン・ハッピー・プリン・ピーチ、水谷泰子、（有）アネット、（有）門田新聞舗、安岡邦昭、伊藤弘一、伊藤智章、伊藤隆之、井原正人、井上正子、茨木サンタ、浦本吉治、永井正志、円尾クリニック、奥本弥栄子、岡本寛史、下出喜久子、加藤文男、河合はつ、海東天寅、（株）サンディ代表取締役平井晃、岩井寿恵子、岩間真由美、吉良茂子、久保真吾、弓場勉、近鉄タクシー（株）、桑田敬信、月輪寺・樫本桑牛、古木民夫、戸室常一、荒川敏夫、荒川房江、高次脳機能障害講演会会場募金、（財）大阪府レクリエーション協会、坂井数富、三浦豊、三浦茂子、三木眞嗣、山中博、山田美智子、山本勝治、山本哲夫、師岡恒司、寺崎啓一、小野木亨、小林昌雄、小林正典、松原美佐男、松川静雄、松野辰弥、照屋衛、上村亨、上田孝之、常翔学園高校生徒会、人生道場、水ノ江正、水谷澄男、杉田勝洋、星翔高校生徒会、清水勇、西田武夫、石脇コミュニティクラブ、切通良昭、泉谷治正、増田武司、足立誠太郎、太田康彦、大阪キリスト教短期大学附属聖愛幼稚園、大阪学芸高校平成21年度3年4組、大阪学芸高校平成22年度2年3組、大阪市信用金庫、大阪深雪会、大阪府南部朝日会泉州ブロック、大野泰司、大和梱包、沢トシ子、谷佐代子、丹羽のり子、段野邦夫、池田信之、中島チエ子、中島功、中島正幸、中里絃恵、朝日チャリティー美術

展会場募金、朝日新聞健康保険組合健康管理室、朝日新聞健康保険組合泉北同人会、長谷川弘、長谷川美怜、津本清次、塚元栄子、辻外科リハビリテーション病院、田口鐵男、渡辺良子、藤田一、日曜画家協会、能楽協会大阪支部、尾関博、尾山和江、百目鬼、浜田節子、富田年明、武田芳子、伏谷魁、福貴、福山章紀、平佐国武、平田英之助、平澤俊光、片山弘、堀昭一、木金館木工いろは塾、木村佐登美、野下之男、野田一三、和田信矢、脇田武利、鰐渕誠吾、澤田太郎、畠田弘昭

▼兵庫県：ASA芦屋南、ASA名谷、ASA姫路西、ASAひょうご湊、K・S、朝日新聞サービスアンカー、朝日新聞サービスアンカー川西南、朝日新聞サービスアンカーたつの、内海則子、グループつくしんぼ、新妻義輔、伊東俊夫、伊藤通、井上公宏、奥所侯治、岡本健三、河鹿庵、花井彩、甘露寺、喫茶ポエム、久保一博、古川清、高橋町彰、合田興世、坂元紀子、山田健一、柴垣昌史、柴田寛、柴田寛、真生園有志、神戸信之、石崎晃一郎、村井雅敏、大江良一、大重フミ子、瀧谷泰博、筒井公子、藤山清郷、道又央、福田田鶴子、木村繁、柳瀬陽之助、友松功一、落合弘・弥生、和田産婦人科医院、佛立寺婦人会、廣辻逸郎、櫻本秀夫

▼奈良県：前田健治、宮崎新嗣、桜井中学校昭和44年卒業生同窓会、山田豊司、山内正幸、浄土宗崇徳寺安井良道住職と檀信徒有志、石崎直司、川畑宗一、村田民子、竹村久仁子、茶道表千家青嵐会、中川壮、奈良三重朝日会及び第8回大和路まほろば国際スリーデーウオーク有志一同、奈良福音教会、奈良文化高校、日根文男、日本JCじゃがいもクラブ、平井敏正、明日香青陽窯陶芸教室一同、木村佐喜夫、野村進

▼和歌山県：野口稔、光定内科待合室一同、松本登美

▼鳥取県：露木節子、穴戸光範、澤田能生

▼島根県：(株) 松江朝日広告社、西川真理子、鈴木忠子

▼岡山県：佐藤宏二、西崎博子

▼広島県：ASA土生、ASA福山北、ASA福山西部、木原勝枝、柿本正廣、原田敏幸、三角偉友、重藤えり子、石井美智子、村上益夫、村野坦、中村耕也

▼山口県：新原京子、伊藤経亮、伊藤光夫、井上等、井本芳宣、稲川芳雄、岡基子、岡崎博友、河上勲、河上和洋、河本眞龍、(株) 朝日新聞月山販売、吉広嘉市、宮本甫子、牛尾博昭、隅田茂生、原正昭、原田巖・初称、光内美恵子、広重清子、高松恵美子、山岡邦雄、山根喜美、秋田香栄子、小泉和夫、松崎浩司、織田哲至、森永美智子、深本良一、神徳翁甫、清水勇雄、生徒職員一同、赤川悦夫、蔵重典明、大島喜代子、竹内清海、中原礼美子、定近サチ、藤本裙子、徳山小学校ボランティア委員会、内田喜弥、白水玄勇、百田陽一、武居稔博、福山道義、片岡逸、豊浦高等学校生徒会、末次清、木村猛雄、木村巖、和田鵬亮、高山晋洋

▼徳島県：松永依昭

▼香川県：ASA三豊北、桑島実

▼愛媛県：合田沿二、阿部順子、越智睦美、宮田和子、高田幹雄、常光謙輔、杉藤徹志、砥部焼陶芸館、鈴木沙雄

▼高知県：上田明美、大川佐絵子、富岡隆夫

▼福岡県：(株) 坪井商店、(社) 茶道裏千家淡交会北九州支部、エコアート森と海、エバーグリーン、きとう胃腸科内科クリニック、田中梅子、中尾研輔、中莊俊、橋本収司、日高寛、平川政子、ヒロ・ヘレナフラスタジオ萩ヶ丘教室受講生一同、福知山三十五年、松本富士夫、村上啓子、阿部志朗、安西義孝、安村茂男、安中康子、安藤倫子、安部秀範、安部忠吉、伊豆統一郎、医療法人恵祐会、井手義雄、井上継郎、井上虎雄、井上静子、井本武彦、磯矢昭三、稲永清泰、稲田勝代、友田秀教、永田諫也、永田泰徳、園田正信、塩塚春生、奥村博一、奥野豊、横田チヨ子、岡田良一、沖永喜代太、加治屋三郎、加治久昭、加来勉、嘉多山直人、河内山寛、河野直重、柿添富久子、梶谷忠夫、梶務、(株) 井上商会、(株) 田舎暮らしチャリティーオークション、鴨川隆彦、苅田ローターリークラブ一同、丸野了、岩崎健治、岩田光雄、岩渕邦夫、吉永淑子、吉永正人、吉原武利、吉田和明、久志本日出子、宮崎冬樹、宮本邦夫、玉利尚之、金光教若松教会信徒会ニコニコバザー、金子隆彦、熊谷新、熊野ちよ、栗原公足、栗山太、桑原俊治、桑原純、桑名純恵、原田ヨシ子、原芳信、古屋陽一、古庄三喜男、戸田三七生、五貫敏枝、光井幾蔵、光富慎吾、向笠洋三、向川雅樹、工藤五六、恒富誠、江島幸子、溝部忠増、高砂熱学工業(株)九州支店、高次脳機能障害を理解する講演会、高村広、高嶋康年、高木カツヨ、黒川五郎、黒谷次郎一、黒田哲玄、今井眞澄、今村寿和、今本久美子、今林昭、佐々木愛子、佐々木清、佐田正武、佐藤郁男、佐藤武美、佐保肇、佐野武、山下幸子、山下春子、山下新一郎、山家内科医院、山田恒夫、山本英雄、山本清子、山本哲夫、山本文男、志波為市、雌熊二三雄、取違芳弘、手嶋秀子、宗教法人法泉寺、宗田利明、秋枝蕭子、秋成府左治、渋江有恒、重松昌男を語り偲ぶ集い、春日雅樹、小原秀俊、小崎哲也、小山田秀子、小住和徳、小石純也、小倉イルミネーション実行委員会大乾杯大会、小倉教会ハッピー会、小倉弘孝、小嶋房江、松井昭子、松浦範子、松延彰友、松下慶始、松下徹、松下美智恵、松原建彦、松本久、松本弘、松本靖子、松木俊正、上田シズエ、上野敏彦、城戸傳、城島伸介、植村暹爾、植田朋子、森真由美、森脇巖、真島敬一郎、水上平吉、成重博美、生野茅子、西園昌久、西岡雄二、西生寺護持会、西村四郎、西日本カラオケ連合、西明義晃、青沼茜雲、石橋明、石原タロー、赤坂好、赤司光生、川関富美子、川上貴美子、扇谷範可、浅井修平、浅海一隼、前田奉一郎、前田稔、曾根愛子、倉本和美、倉本恵美子、村上歯科医院、村上葉子、多川洋子、太田久香、大久保主税、大西克己、大西純一、大石雅史、大村公人、大野清、大林るり子、第一警備保障(株)、谷口幸子、池田加寿子、池田実男、池島信二、竹中久、竹内サキ子、中村治雄様・千鶴子、中村寿、中村洋子、中村壹郎、中島乃婦子、中美穂子、中牟田恭子、中野好恵、中林スエ子、朝日メディアテック、長治良知、長谷川恭子、長野實、椎野千代子、辻吉彦、辻政博、鶴島光生、天満紀子、田原敬士、田代勝世、田中強、田中時雄、田島栄次、田畑親、田尾美智代、渡邊千鶴子、土居麗子、東筑高校PTA・OB有志、藤巻義範、藤見是、藤崎良人、藤崎良之、藤島八重、藤尾且一郎、内山健治、内田満寿、日原五郎、日高孝枝、日朝高晴、日比生隼斗、日野洋子、日野喜美男、波止君美、波多野昌二、梅谷敬哲、梅津法、柏木昭二、白石逸郎、白石徹、畠中保實、飯田守人、飯田隆之、富岡

春子、福原恒明、福田宏行、福田礼子、福島新生、平井信廣、平田澄穂、平田利栄、平尾武、平野敏弘、米倉昭史、保永惇治、豊田秀子、北沖弘和、堀益一、末吉楠雄、魅モード1、明治学園小学校児童会、木下京子、木下哲治、木村賢示、木村弘、木田洋、目原清嗣、野原勲、野口貢、野口俊治、野口正路、野口美昭、野上智宏、矢野雄、油絵屋大哲、友井滋、有田雅子、有馬律生、里村知宣、林栄一、實藤正利・さかゑ、淵上鯉一

▼佐賀県：斎藤博之、橋川千代子、佐賀ユーモア協会川柳部会撫尾清明、森永秀和、杉原茂樹、石井倫平、長谷川敏子、檜本純一、豊田俊明

▼長崎県：小川繁晴、竹谷テイ子、富永キミ子、下山高生、後田敏子、高岡願生、赤木輝子、千葉憲哉、長谷川昇、百田眞瑳彦、武宮至高、牟田義人、里崎裕康

▼熊本県：岩田敏子、稲田正雄、永野昌安、岡山洋二、宮崎邦介、宮田和子、広瀬隆之、坂田サチ子、山部則義、志方栄吉、小篠武明、森本政幸、西嶋勝利、樽海友希、竹中研治、田中秀子、鈴木一臣、濱田富美子

▼大分県：ASA豊後高田販売店、吉松忠徳、安部哲哉、森照明、中野眼一、岩永知子、亀井邦明、原嘉徳、原口五月、古島由紀子、佐々木伸子、佐藤トシ子、山本宏子、山崎福男、重石巧、松成満男、西森靖生、丹羽瑛、朝日新聞日田販売（株）、辻野美治、田沼進、富田高良、棕園ミヨ子、野上和恵、野津川登・広田久子、矢永英子

▼宮崎県：O・Z、吉松成人、近藤幸夫、高森拓夫、赤池義昭、前田昭久、谷口浩、中山民男、藤元秀一郎、飯田孝一

▼鹿児島県：堺孝子、阿久根亨、雨宮仁、喜久村繁、重永誠之、赤崎安満、田原睦郎、南嶋昭政、木村龍一郎、立志公和

朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオのご案内

◆朝日福祉ガイド DVD◆

『自閉症の子どもの評価 全 4 巻』

セット価格 18,000 円

各巻 4,800 円

自閉症の人たちを正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、わかりやすく映像化しました。第1巻「評価の仕方」(65 分)・第2巻「評価のポイント」(48 分)・第3巻「評価と課題設定」(86 分)・第4巻「自立のための評価」(71 分)。

『自閉症の子どもの自立課題 全 3 巻』

セット価格 13,500 円

各巻 4,800 円

「自分はできるんだ」という感覚を養い、いろいろなことに取り組もうという意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しくやさしく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64 分)・第2巻「自立課題の作り方」(59 分)・第3巻「自立課題の作り方」(49 分)。

『青年期・成人期の TEACCH プログラム』

3,000 円(56 分)

学校卒業後の就職や居住、余暇の過ごし方など、青年期・成人期の自閉症の人たちへのTEACCHによる援助プログラムを紹介。

『自閉症児の明日のために』

—TEACCH のねらいと考え方—

3,000 円(49 分)

TEACCHプログラムの全体像をセラピストの立場から紹介。日本の自閉症の人たちを援助する上で何が必要かを示唆。

『親のための TEACCH プログラム』

3,000 円(68 分)

TEACCHプログラムの家庭での援助の実際を具体的に紹介。親の立場で実践できるようにわかりやすくまとめました。

『教師のための TEACCH プログラム』

3,000 円(67 分)

教室やスケジュールの設定、親との連携など、学校や施設・作業所などで自閉症の人たちに関わる教師や指導員の参考に。

◆朝日福祉ガイドビデオ◆

『自閉症の治療教育』

3,000 円(60 分)

全米自閉症児親の会の様子や米国ノースカロライナ州の自閉症の治療への取り組みを紹介。

『TEACCH』

3,000 円(90 分)

TEACCH部で行われている一週間にわたる教師のための訓練セミナーの様子を詳しく紹介。

『ダウン症児のための赤ちゃん体操』

4 巻セット 15,000 円(各 30 分)

ダウン症の赤ちゃんの発育に合わせて楽しい音楽で行う体操。生後2カ月から2歳くらいまでの赤ちゃんに。

◆朝日福祉ガイドブック◆

『精神障害者のホームヘルプサービス』	精神障害を正しく理解し、当事者の立場にたった支援ができるよう、関係者の体験談や豊富な事例でわかりやすく解説しています。
800 円	
『自閉症の人たちを支援すること』	TEACCHプログラムの最高責任者ゲーリー・メジボフ教授が自閉症の障害と同プログラムの内容についてわかりやすく解説しています。
800 円	
『自閉症のひとたちへの援助システム』	TEACCHプログラムの実践事例を豊富な写真とイラストで紹介しながら、このプログラムを日本でいかに生かすかを提案しています。
500 円	
『きみといっしょに』	全国のLD児を持つ親たちが、LD児への理解やよりよい付き合い方をまとめた手引。Q&Aと推薦する相談・診断機関などを掲載しました。
500 円	
『くるまいす-第3改訂版』	車いすの種類や構造、基礎的な介助方法や介助のポイントをわかりやすく解説。公共交通機関の利用についてもふれています。
300 円	
『新・川崎病がわかる本改訂増補版』	乳幼児を中心に発病する原因不明の“川崎病”について症状・特色・療養上の注意・相談窓口など最新の情報を加えて解説しています。
500 円	
『小児ぜんそくは治る』	小児ぜんそくを正しく理解し、どのように予防し、治していくかを最も新しい知見を折り込みながらわかりやすく解説しています。
500 円	

◆お申し込み・お問い合わせ◆

ご希望の方は電話かFAX、電子メールで下記までお申し込みください。

(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)

HP (<http://www.asahi-welfare.or.jp/>) からもお申し込みができます。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD・ビデオ係

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2 郵便振替 00130-1-9166

tel : 03-5540-7446 fax : 03-5565-1643

里親家庭で生活する「子どもの権利ノート」のご案内

日本全国の里親家庭には、様々な理由で実の親と暮らすことができない約3600人の子ども（厚生労働省の2007年度調査）がいます。こうした子どもたちに豊かな生活を送ってもらうために、「子どもの権利ノート」（朝日新聞厚生文化事業団編集・発行、写真）を2008年10月に作成し、全国里親会を通じて頒布しました。

作成にあたっては、青山学院大学教授の庄司順一さんを委員長に、里親家庭で育った若者や弁護士、里親、東京都児童相談センター所長、ソーシャルワーカーらによる作成委員会を結成しました。

里親と生活する子どもたちの多くは、気持ちを表現して周囲に働きかける、人を信じて支え合うといった力を奪われた経験を持っています。こうした力はすべての人に大切なものであり、まさに権利や人権と言えるでしょう。里親家庭の子どもが豊かに生きるためには、これらを子どものうちに取り戻さなければなりません。そのためには、安心できる環境の中で、その力が子どもにあること、だれにも奪われてはいけないこと、安心して使っていけることを繰り返し伝えることが欠かせません。「子どもの権利ノート」は、そのツールとして里親家庭で使っていただくためのものです。子どもと里親が読みやすいようにイラストを多く入れ、一緒に考えながら書き込めるページなども盛り込みました。



また、里親を対象にしたガイドブックも作りました。里親制度は子どもの権利を大切にするための公的な仕組みが十分ではなく、多くの里親は悩みや苦労を抱えていると言われます。ガイドブックは養育上の困難などを子どもの権利擁護の視点から解説し、日々、役立てていただくのが目的です。

施設で暮らす子どものための権利ノートは従来からありましたが、里親家庭の子ども向けは神奈川県、大阪府、沖縄県などでしか作られていませんでした。この「子どもの権利ノート」がきっかけとなり、多くの自治体などで権利ノートや子どもの権利擁護の仕組みが作られることも目指しています。

発行以来、子どもを預かっている里親以外にも、里親になりたいという人から政治関係者まで、様々な立場の方から、多数の送付申し込みがありました。「権利ノートを作る参考にしたい」（地方自治体、大学教員）、「里親家庭で生活することになる子どもに渡したい」「里親希望者への研修の教材にしたい」（ともに地方自治体、児童相談所）、「授業で使いたい」（高校教師、大学教員ほか）などの声が寄せられ、この「子どもの権利ノート」とその趣旨が広まることを期待できるものが多くありました。

- ・「知ってほしいあなたのこと～子どもの権利ノート～」(幼児・小学生用と中学・高校生用の2種類)
- ・「子どもの権利ノート ガイドブック～子どもと里親養育の未来のために～」(委託里親用)

いずれもA5判サイズの小冊子で、無料です。発行部数は合計3万部。残部があります。

朝日新聞厚生文化事業団のあゆみ

人間尊重の原点に立って

朝日新聞厚生文化事業団の設立のきっかけは、1923（大正12）年9月1日の関東大震災の被災者救援活動です。朝日新聞社は全国から寄せられた義援金や食糧、生活用品を被災者に配り、震災の翌年末には「歳末同情週間」（現在の「歳末助け合い」）を主催し、紙面キャンペーンや街頭募金をはじめ、美術家や作家などの協力を得た「色紙・短冊即売会」（現在の「朝日チャリティー美術展」）を催しました。これらの寄金を食糧や衣料品にかえて生活に困る人々に贈りました。

その後、世界的な経済恐慌で生活困窮者が増え、社会問題が続発したため、28年1月に「社団法人朝日新聞社会事業団」を大阪朝日新聞社に創設しました。「歳末同情週間」の寄金で生活困窮者に慰問袋や無料診療券、常備白米券を配り、困窮者への「出世資金」の貸し出しや農繁期託児所の開設、水上生活者のための無料診療船巡航などを実施しました。学校に弁当を持参できない子どもたちの「欠食児童給食運動」キャンペーンは、現在の学校給食のきっかけとなりました。大阪に公衆衛生訪問婦協会を設立、保健・育児など多岐にわたる活動はわが国の保健師制度の基礎を築きました。

第2次大戦後は、戦災者や引揚者への家庭常備薬や衣料品の配布、傷病兵慰問などの援護事業から始まりました。廃虚の中での明るい話題は、49年9月にインドのネール首相から贈られた象「インディラ」の「移動動物園」でした。半年間で東日本18都市を回り、子どもたちの笑顔を取り戻しました。

52年に社会福祉事業法が制定され、朝日新聞社の東京・大阪・西部各本社にそれぞれ独立の社会福祉法人を設け、「朝日新聞厚生文化事業団」と改称しました。63年には大阪事業団の名古屋支部が独立し、全国展開事業とともに地域福祉事業の推進に着手しました。

戦後の復興とともに本格的な福祉事業への取り組みが始まり、児童福祉法施行5周年を記念して大阪に「アサヒ生駒山キャンプセンター」を開設、児童養護施設の中学生修学旅行や福祉施設で暮らすお年寄りの温泉旅行も始まりました。54年8月に第1回の「朝日夏季保育大学」が開かれ、56年2月から始まった「この子たちの親を探そう」運動は、戦争で生き別れた親子146組の対面を実現しました。ハンセン病の正しい理解と患者支援のために「大阪ハンセン病協力会」を設立し、「アサヒベビー相談室」を大阪・名古屋のデパートで開設したほか、大学医学部による全国の無医地区診療など、医療と公衆衛生事業にも力を注ぎました。59年9月の伊勢湾台風、64年6月の新潟地震では被災地に朝日診療車が出動して被災者救護にあたり、全国からの救援物資を配布しました。

高度経済成長とともに事業を拡大しました。三重県多徳島の「アサヒ志摩キャンプセンター」、愛知県梶島の「アサヒキャンプセンター」、千葉県保田海岸の「朝日臨海福祉センター」、大分県九重高原の「朝日高原福祉センター」を開設し、福祉施設の子どもや障害児が参加するキャンプ事業が始まりました。また、激増する交通遺児家庭への支援活動を始め、視覚障害学生の奨学金

制度も創設しました。

障害者や難病患者への支援も本格化し、電動タイプライター・電動車いすの贈呈や普及キャンペーンを展開しました。福祉のまちづくりを進める「車いす市民交流集会」や、福祉先進国を訪ねる「車いすヨーロッパの旅」も始まりました。「ヨーロッパの旅」は障害者の海外旅行の先駆けとして注目され、これらの集会や旅の参加者の多くが、障害者自立生活運動の中心となりました。また、「朝日ボランティア奨励金」「朝日福祉設備助成金」（８６年に「朝日福祉助成金」に統合）を相次いで創設、各地でボランティア講座を開くなど、草の根福祉活動の支援を進め、寝たきりや認知症の高齢者の問題に対応する「アサヒ老人家族相談室」も開設しました。

８１年の国際障害者年には「障害者の自立を考えるシンポジウム」を全国で開催し、ノーマライゼーションの理念を基に、コミュニケーション・プリンターや手書き電話、福祉電話装置「ふれあい」などの贈呈運動を展開しました。精神障害者の医療や福祉の先進国である欧米５カ国に視察団を派遣し、日中平和友好条約締結１０周年を記念した「日本・中国車いす市民友好相互交流」も実施しました。

また、自閉症の支援システム「TEACCH（ティーチ）プログラム」に着目、米国ノースカロライナ大学から講師を招いて研修会を開き、ガイドブックやビデオを制作・頒布するなど、本格的な普及活動を開始しました。同時に学習障害児（ＬＤ）の理解を進める公開相談会や、深刻な社会問題となった青少年の「ひきこもり」問題を考えるシンポジウムも各地で開きました。手話の普及とボランティア活動・福祉教育の推進をはかる「全国高校生（大学生）の手話のスピーチコンテスト」は８４年にスタート、「手話の甲子園大会」として定着しています。９１年からの「アジア障害者の１０年」にあたり、全国の障害者施設・団体と協力して、タイ・ベトナム・カンボジア・フィリピンなどの障害者に車いすを贈る運動を展開、現地の障害者が車いすを製作・修理する工場を開設しました。

一方、８３年のアフリカ飢餓救援キャンペーンをはじめ、国内外で起こった災害に対応して、救援募金を呼びかけてきました。９１年には「チェルノブイリに光を」キャンペーンを開始、広島・長崎の赤十字病院で被災地の子どもを診療し、現地の医師が被曝（ひばく）治療の研修を受けました。９５年１月の阪神淡路大震災では、救援拠点として「朝日ボランティア基地」を開設し、高齢者・障害者への緊急援助や仮設住宅世帯、アジアからの留学生、被災児への支援など、多岐にわたって活動しました。この実績は、２００４年の新潟県中越地震でも生かされ、被災者の心のケアをはかる独自事業を展開。１１年３月の東日本大震災でも独自の救援事業に取り組んでいます。

東京・大阪・西部・名古屋で独立して活動してきた各事業団は０１年４月１日に合併して、「社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団」となり、全国的な活動に力を注いでいます。

０８年には創設８０年を迎え、記念事業として「子どもへの暴力防止プロジェクト助成」「養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」をスタートさせました。０９年度からは「子ども」「障害者」「高齢者」を事業の３本柱とする基本方針のもと、活動を進めています。今後とも、これまでの実績を生かし、人間尊重の原点に立って、「共に生きる豊かな福祉社会」の実現をめざし、先駆的な事業に取り組んでまいります。

2010年度 収支計算書

(2010年4月1日～2011年3月31日)

単位：円

事業活動収入	526,627,043	事業活動支出	473,984,193
事業収入	163,788,357	事業支出	216,285,035
児童福祉事業	8,965,288	児童福祉事業	65,620,156
障害者福祉事業	12,505,315	障害者福祉事業	26,292,241
高齢者福祉事業	447,000	高齢者福祉事業	5,933,142
西部福祉助成金	0	西部福祉助成金	4,969,420
チャリティー事業	133,221,055	チャリティー事業	80,107,952
医療と公衆衛生	3,616,199	医療と公衆衛生	492,837
福祉啓発推進	52,000	福祉啓発推進	2,757,290
朝日福祉ガイド(DVD 他)	4,981,500	朝日福祉ガイド(DVD 他)	9,368,274
		その他	20,743,723
寄付金収入	338,175,174		
引当金戻入	24,470,040	引当金繰入	23,022,953
雑収入	193,472	人件費	182,275,230
		事務費	51,027,611
		減価償却費	1,373,364
事業活動外・特別収入	10,019,953	事業活動外・特別支出	337,543
財産収入	10,019,953	雑損失	337,543
経理区分間繰入金収入		経理区分間繰入金支出	
		当期活動収支差額	62,325,260
合計	536,646,996	合計	536,646,996

理事・監事・評議員名簿

2011年3月31日現在

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団／理事・監事・評議員

(理事5人、監事2人、評議員12人 ※理事、評議員は定員に比べ欠員1人) 敬称略・順不同

理事長	両角 晃一	朝日新聞社役員待遇・広報・環境担当
常務理事	吉岡 秀人	朝日新聞厚生文化事業団常務理事
理 事	佐々木正美	川崎医療福祉大学特任教授
同	炭谷 茂	社会福祉法人恩賜財団済生会理事長、元環境事務次官
同	早瀬 昇	社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事
監 事	関岡 武次	元東京都福祉局長
同	亀岡 保夫	公認会計士
評議員	山田 昭義	社会福祉法人A J U自立の家専務理事
同	野村 寛	社会福祉法人東京都社会福祉協議会事務局長
同	影山 秀人	弁護士、NPO法人子どもセンターてんぼ理事長
同	阿部 幸雄	社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団事務局長代理
同	武田 淳一	朝日新聞東京連合朝日会会長
同	森田 秀男	財団法人ベルマーク教育助成財団常務理事
同	関戸 衛	元朝日新聞厚生文化事業団常務理事
同	杉浦 信之	朝日新聞社ゼネラルマネジャー兼東京本社報道局長
同	室田 康子	朝日新聞社お客様本部長
同	横山 宏	朝日新聞社財務本部長
同	両角 晃一	朝日新聞社役員待遇・広報・環境担当
同	喜田 洋	朝日新聞厚生文化事業団大阪事務所長

お問い合わせ・寄付の受け付け・職員名簿

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

□郵便振替…口座番号「00130-1-9166」

□銀行振込…三井住友銀行新橋支店 普通「303668」

■大阪事務所

〒530-8211 大阪府大阪市北区中之島3-2-4

TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

■西部事務所

〒803-8586 福岡県北九州市小倉北区室町1-1-1

TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

■名古屋事務所

〒460-8488 愛知県名古屋市中区栄1-3-3

TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

※ご寄付に際して朝日新聞厚生文化事業団が振込料金を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求下さい。銀行振込の場合は事前にご連絡下さい。

※各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

※当事業団への寄付金は所得税法・法人税法による寄付金控除が認められております。

朝日新聞厚生文化事業団職員名簿（2011年3月31日現在）

■本部（東京）

事務局長兼次長 山田 雄一
 管理部長 池谷 澄子
 事業部長 福田 年之
 広報担当部長 谷 啓之
 柳沢 佐和子
 野崎 貴士
 中村 宣人
 落合 すが子
 古屋 厚子
 保谷 加代子

■大阪事務所

事務所長 喜田 洋
 次長 岩切 修次
 事業担当部長 中村 茂高
 脇 敬子
 小倉 玲子

■西部事務所

事務所長 重光 雄二
 参与 成重 博美
 榎並 怜子

■名古屋事務所

事務所長 亀井 邦明
 東 幸枝
 山田 たまみ

THE ASAHI SHIMBUN SOCIAL WELFARE ORGANIZATION

朝日の社会福祉

2010

平成22年度

事業
報告

ホームページで福祉情報を発信しています

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

「2010年度 事業報告」

2010年4月 1日から

2011年3月31日まで

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団